

第 8 期 江戸川区障害福祉計画・
第 4 期 江戸川区障害児福祉計画
策 定 の た め の 基 礎 調 査
(江戸川区生活ニーズに関するアンケート調査)
結果報告書 概要版

1.調査目的

本調査は令和 9 年度から令和11年度までを計画期間とする「第 8 期江戸川区障害福祉計画・第 4 期江戸川区障害児福祉計画」の策定にあたり、区内の障害や疾病のある方の実態や障害福祉サービス等に対する意向を把握するために実施した。

なお、アンケート調査名は「江戸川区生活ニーズに関するアンケート調査」とした。

2.調査対象者及び回収状況

【障害者・児調査】

調査対象者		発送数	回収数	回収率
1	身体障害者手帳所持者	750 件	398 件	53.1%
2	愛の手帳所持者 重症心身障害児・者	1,055 件	626 件	59.3%
3	精神障害者保健福祉手帳所持者 難病手当受給者 児童通所受給者証所持者	1,040 件	516 件	49.6%
合計		2,845 件	1,540 件	54.1%

【医療的ケア者・児調査】

調査対象者		発送数	回収数	回収率
1	医療的ケア者・児	155 件	91 件	58.7%

3.調査方法と調査期間

【障害者・児調査 / 医療的ケア者・児調査】

調査方法：郵送による配布。回答は、インターネットもしくは郵送のどちらか。

調査期間：2025年12月12日(金)～2026年1月16日(金)

4. 調査結果を見るうえでの注意事項

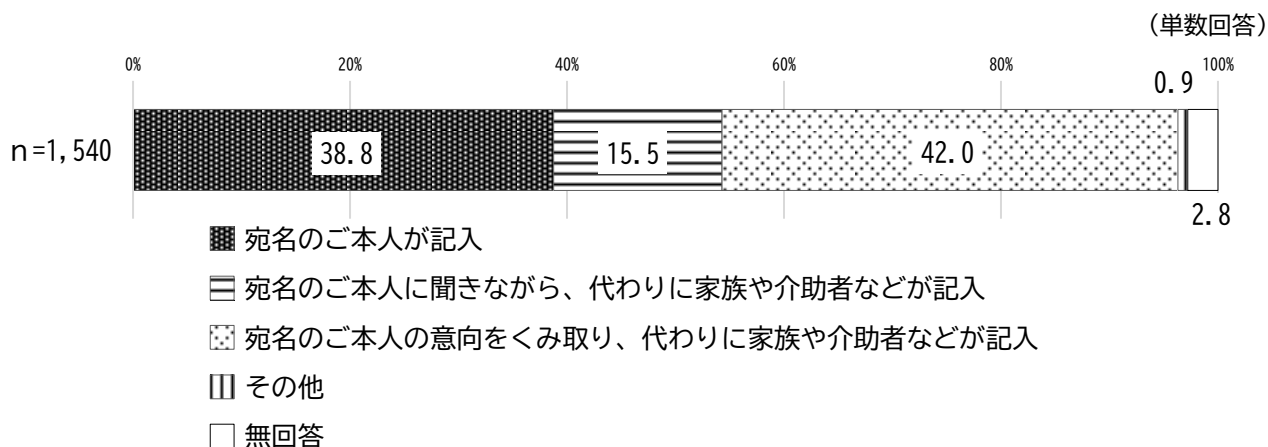
- ・ 本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・ 百分率(%)の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答(1つだけ選ぶ問)においても、四捨五入の影響で、%を足しあわせて100%にならない場合がある。
- ・ 複数回答(2つ以上選んでよい問)においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・ 本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・ 回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中ではふれていない場合がある。

5.結果の概要

障害者・児調査

【回答者の属性】

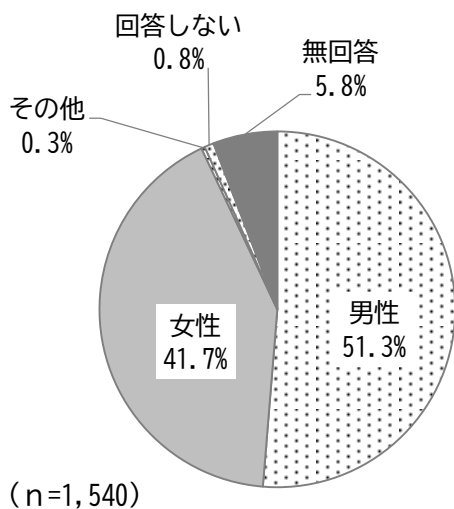
- 回答者の属性は、「宛名のご本人の意向をくみ取り、代わりに家族や介助者などが記入」が42.0%と最も高く、次いで「宛名のご本人が記入」が38.8%、「宛名のご本人に聞きながら、代わりに家族や介助者などが記入」が15.5%となっている。



【本人の属性】

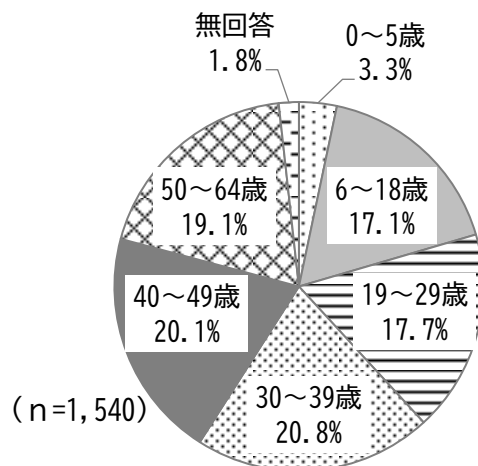
<性別> (単数回答)

- 性別は、「男性」が 51.3%と最も高く、次いで「女性」が 41.7%となっている。



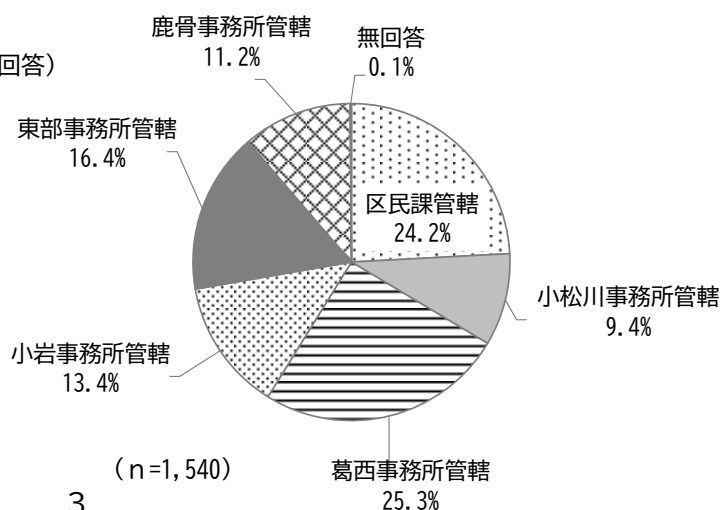
<年齢「令和7年10月1日現在」> (単数回答)

- 年齢は、「30～39 歳」が 20.8%と最も高く、次いで「40～49 歳」が 20.1%、「50～64 歳」が 19.1%となっている。



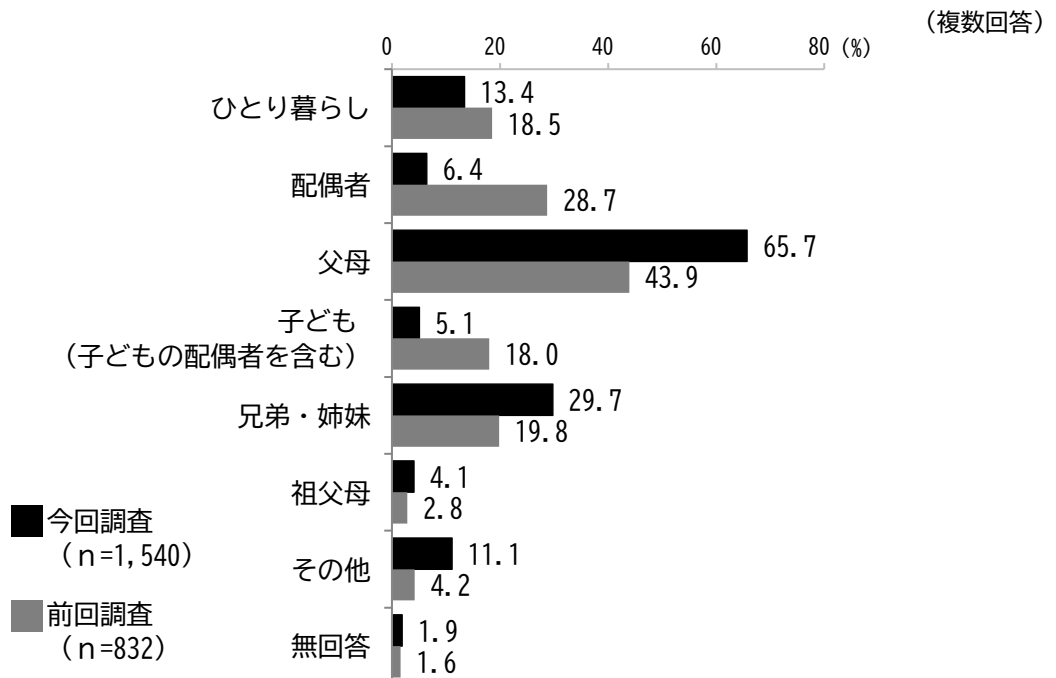
<居住地域「令和7年10月1日現在」> (単数回答)

- 居住地域は、「葛西事務所管轄」が 25.3%と最も高く、次いで「区民課管轄」が 24.2%、「東部事務所管轄」が 16.4%となっている。



<同居者>

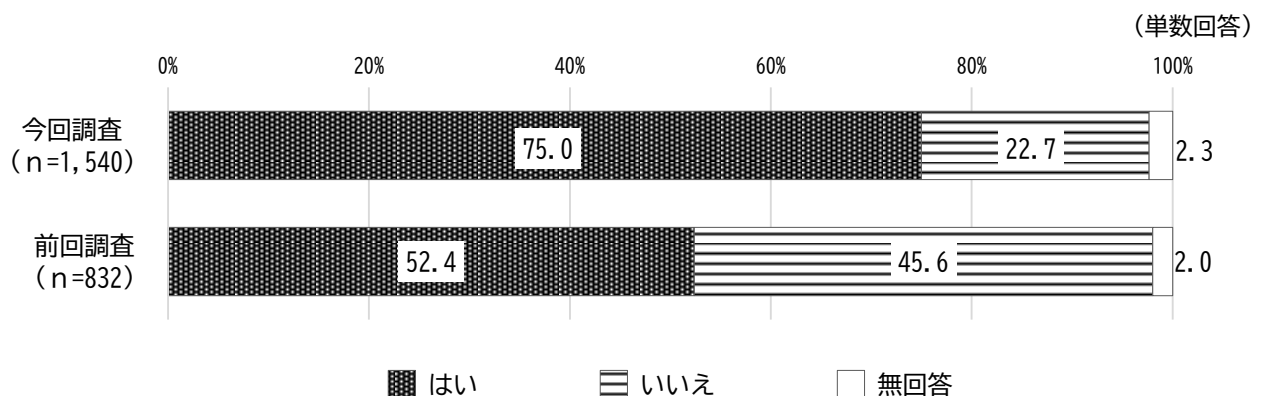
- ・同居している人は、「父母」が 65.7%と最も高く、次いで「兄弟・姉妹」が 29.7%、「ひとり暮らし」が 13.4%となっている。
- ・前回調査と比較すると、「父母」の回答が 21.8 ポイント高くなっているが、今回の調査では 19～39 歳の回答割合が高くなっているため、その影響と考えられる。



【日常生活の手助けについて】

<介助や手助けの必要性>

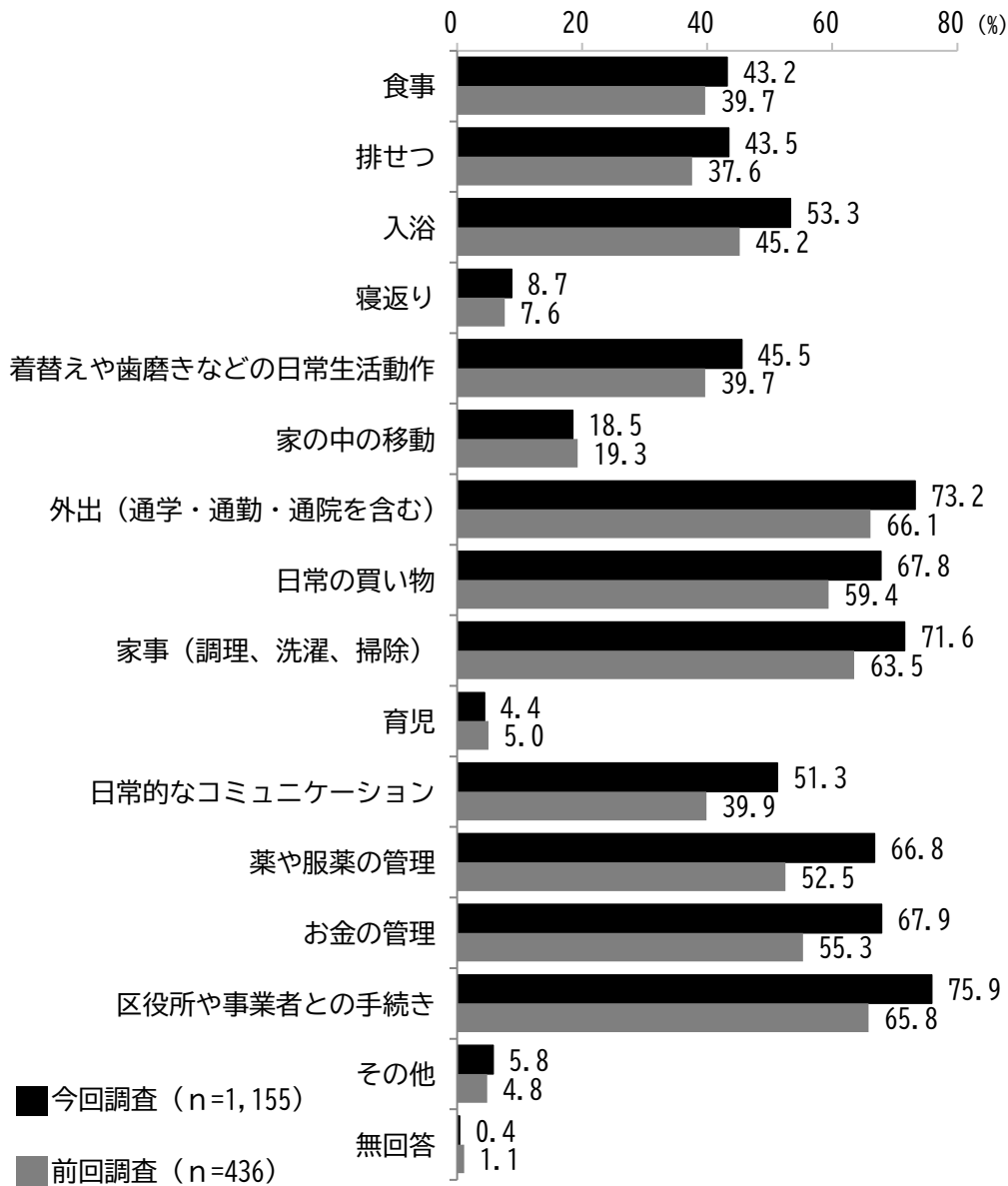
- ・介助や手助けの必要性について、「はい」が 75.0%、「いいえ」が 22.7%となっている。
- ・前回調査と比較して、「はい」の割合が 22.6 ポイント高くなっている。



< 介助や手助けが必要な場面 >

- ・ 介助や手助けが必要となる場面について、「区役所や事業者との手続き」が 75.9%と最も高く、次いで「外出(通学・通勤・通院を含む)」が 73.2%、「家事(調理、洗濯、掃除)」が 71.6%となっている。
- ・ 多くの項目で、前回調査より「介助や手助けが必要」の割合が高くなっている。

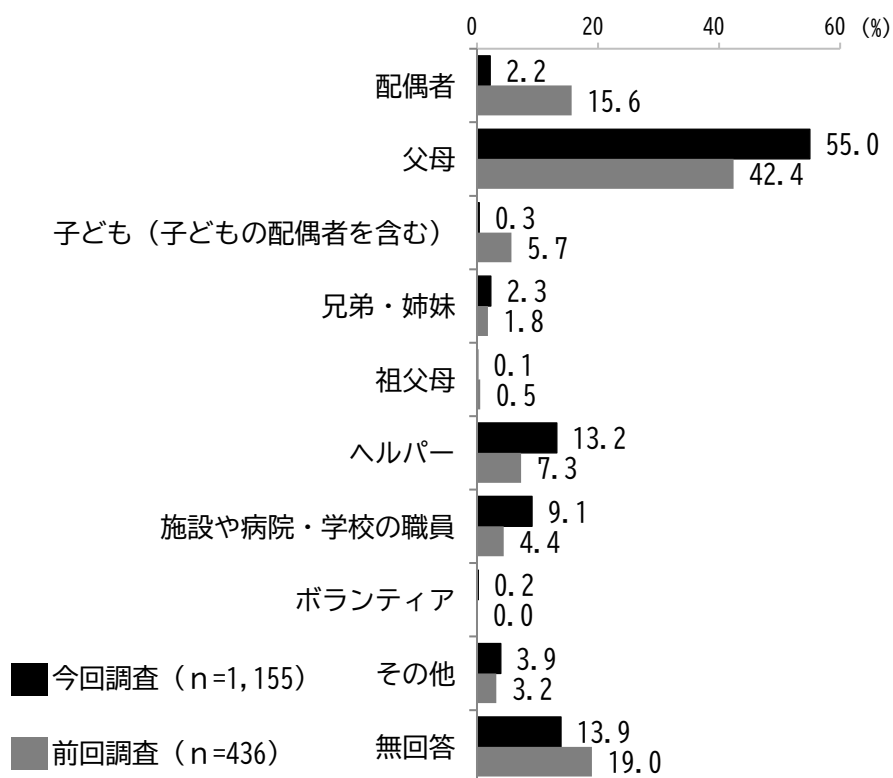
(複数回答)



<主な介助者>

- ・ 主な介助者は、「父母」が55.0%と最も高く、次いで「ヘルパー」が13.2%、「施設や病院・学校の職員」が9.1%となっている。
- ・ 前回調査と比較して、「父母」が12.6ポイント、「ヘルパー」が5.9ポイント高くなっている。

(単数回答)

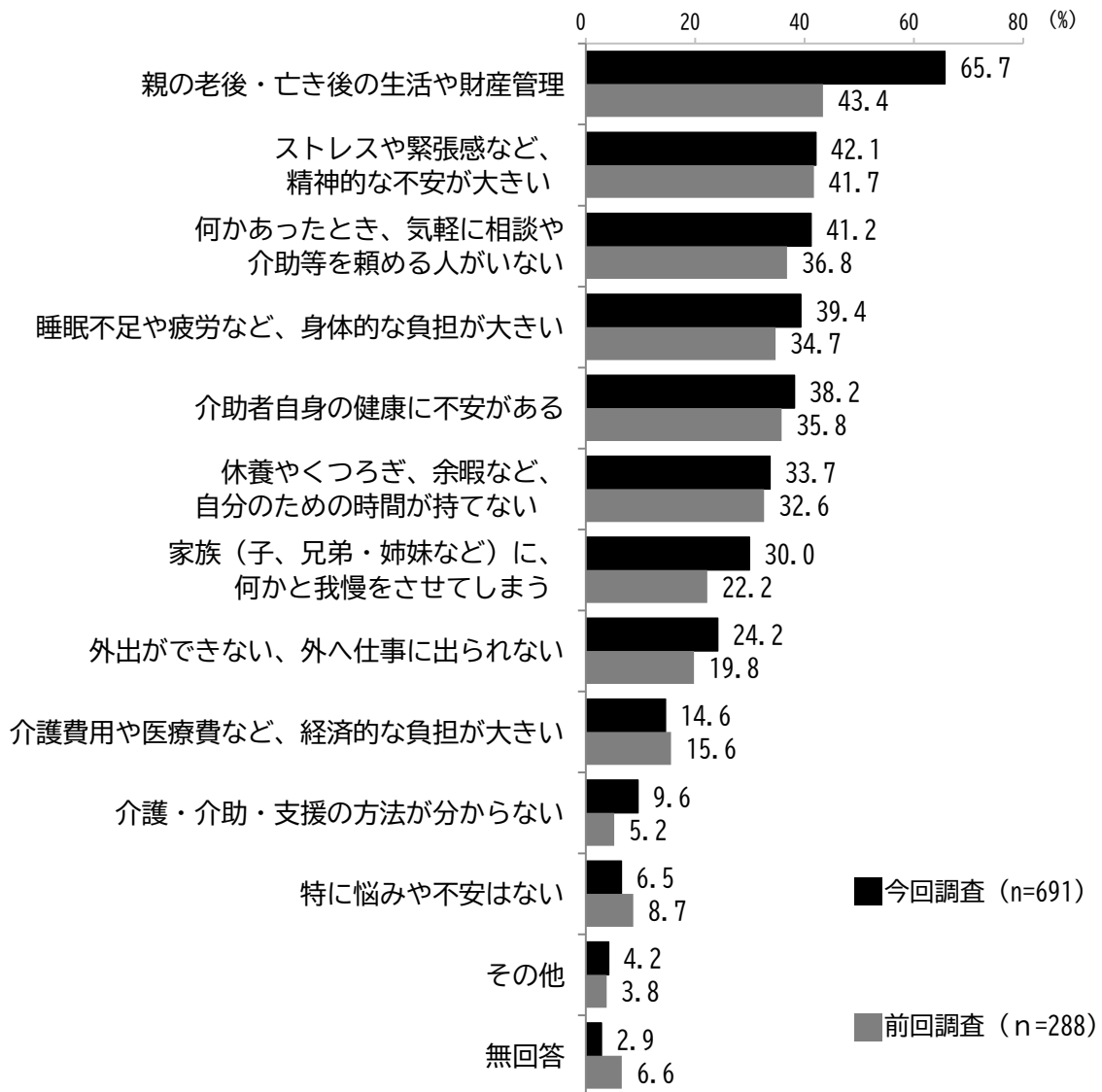


<介助者の悩みや不安(介助者への質問)>

- ・ 介助で感じる悩みや不安については、「親の老後・亡き後の生活や財産管理」が65.7%と最も高く、次いで「ストレスや緊張感など、精神的な不安が大きい」が42.1%、「何かあったとき、気軽に相談や介助等を頼める人がいない」が41.2%となっている。

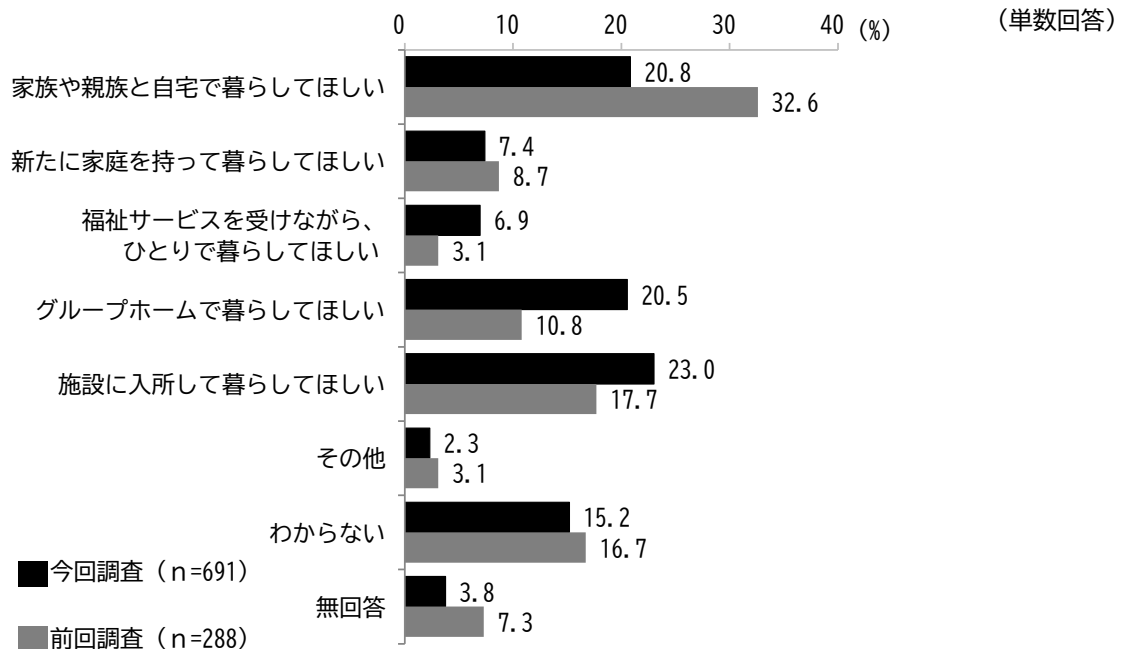
- ・ 前回調査と比較して、「親の老後・亡き後の生活や財産管理」が22.3ポイント高くなっている。

(複数回答)



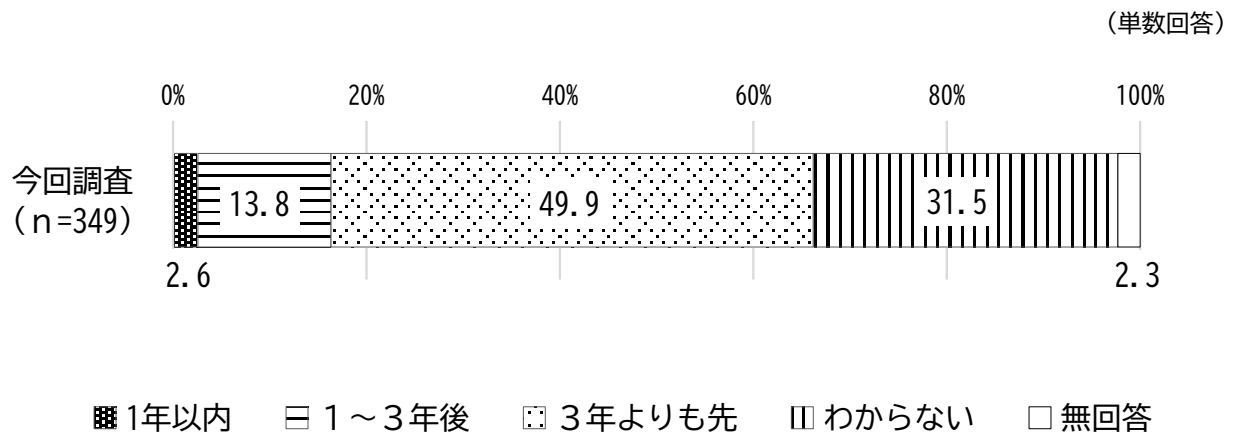
<将来希望する暮らし(介助者への質問)>

- ・ 将来望んでいる暮らし方については、「施設に入所して暮らしてほしい」が23.0%と最も高く、次いで「家族や親族と自宅で暮らしてほしい」が20.8%、「グループホームで暮らしてほしい」が20.5%となっている。
- ・ 前回調査と比較すると、「グループホームで暮らしてほしい」が9.7ポイント高く、「家族や親族と自宅で暮らしてほしい」が11.8ポイント低くなっている。



<将来希望する暮らしは、何年後くらいを考えているか(介助者への質問)>

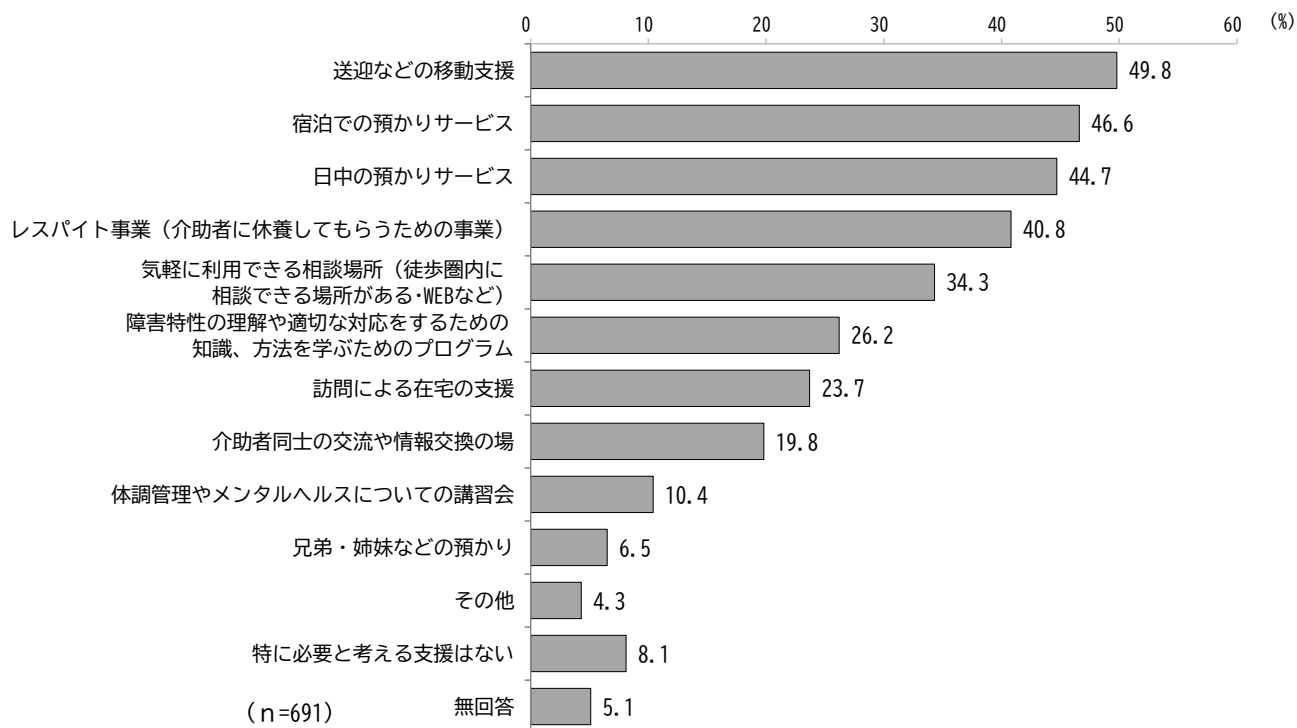
- ・ 「3年よりも先」が49.9%と最も高く、次いで「わからない」が31.5%、「1～3年後」が13.8%となっている。



< 介助者(家族)の負担軽減のために必要な支援やサービス(介助者への質問) >

- ・ 介助者の負担を軽減するために必要と考えるサービスについては、「送迎などの移動支援」が 49.8%と最も高く、次いで「宿泊での預かりサービス」が 46.6%、「日中の預かりサービス」が 44.7%となっている。

(複数回答)

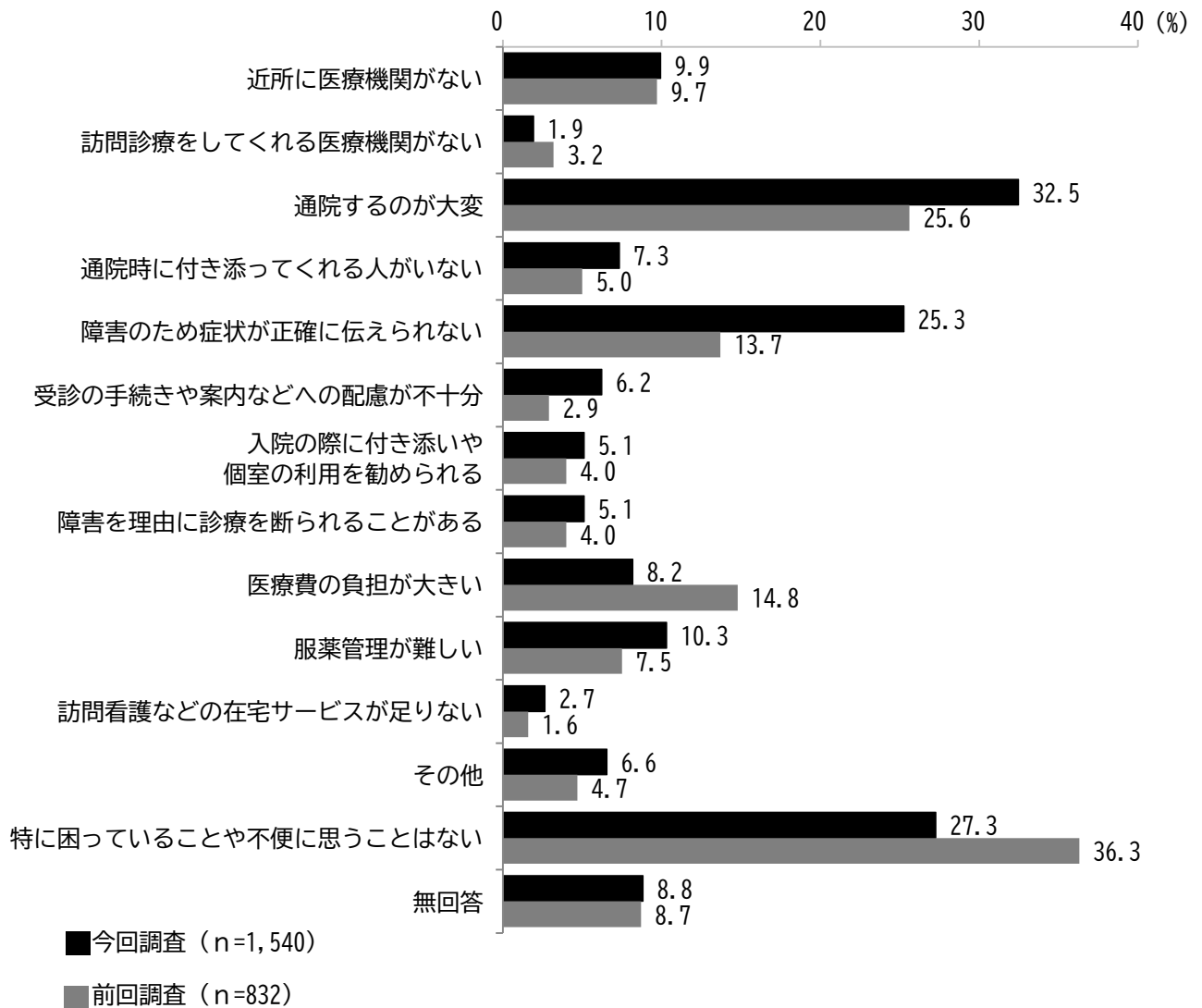


【保健・医療について】

<健康・医療面での困りごと>

- ・健康管理や医療について不便と感じていることは、「通院するのが大変」が32.5%と最も高く、次いで「特に困っていることや不便に思うことはない」が27.3%、「障害のため症状が正確に伝えられない」が25.3%となっている。
- ・前回調査と比較すると、「障害のため症状が正確に伝えられない」が11.6ポイント増加している。

(複数回答(3つまで))

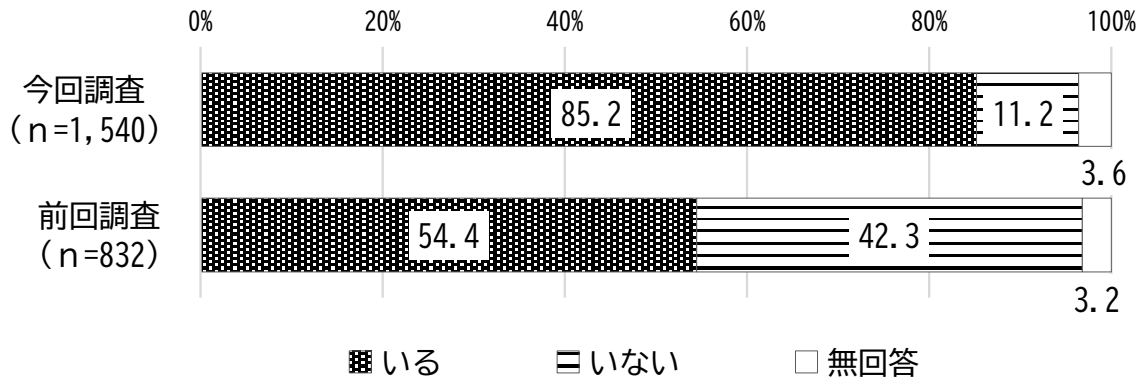


【相談や情報入手について】

＜日常生活で困っていることを相談する人の有無＞

- ・ 相談する人の有無について、「いる」が85.2%、「いない」が11.2%となっている。
- ・ 前回調査と比較すると、「いる」が30.8ポイント高くなっている。

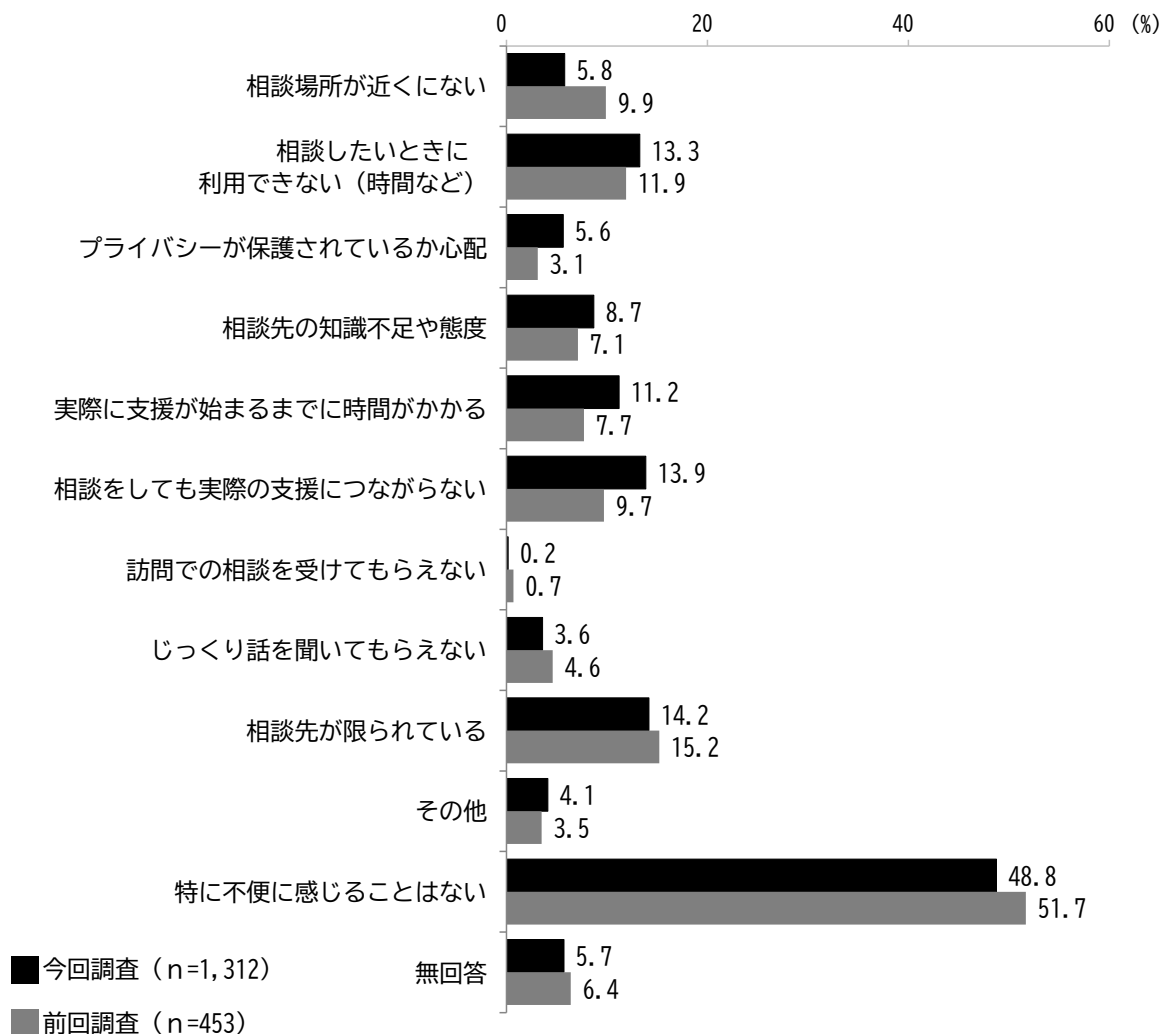
(単数回答)



＜相談する場合に不便に感じていること＞

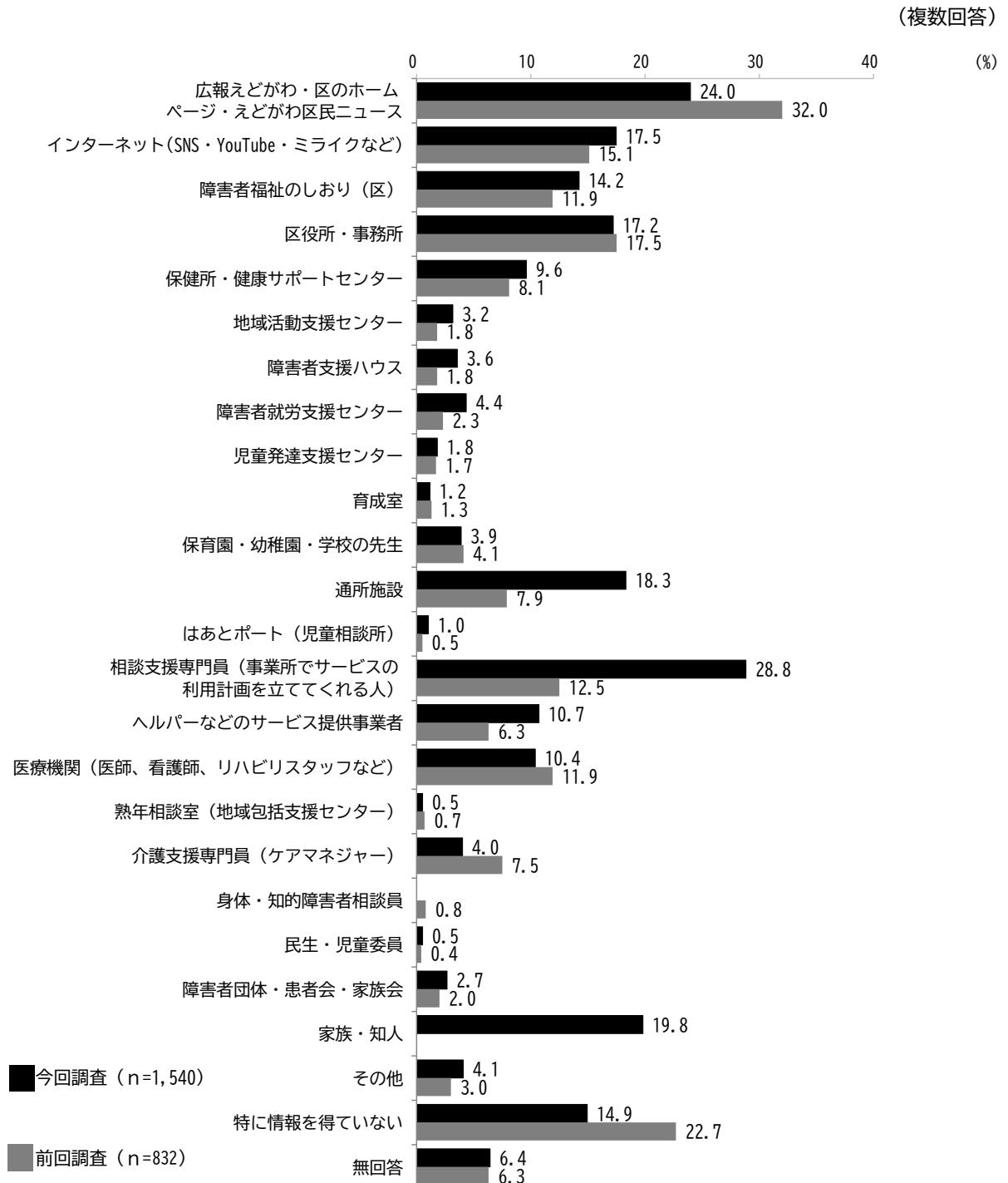
- ・ 相談するときに不便に感じていることについては、「特に不便に感じることはない」が48.8%と最も高く、次いで「相談先が限られている」が14.2%、「相談をしても実際の支援につながらない」が13.9%となっている。

(複数回答(3つまで))



<生活支援に関するサービスの情報の入手先>

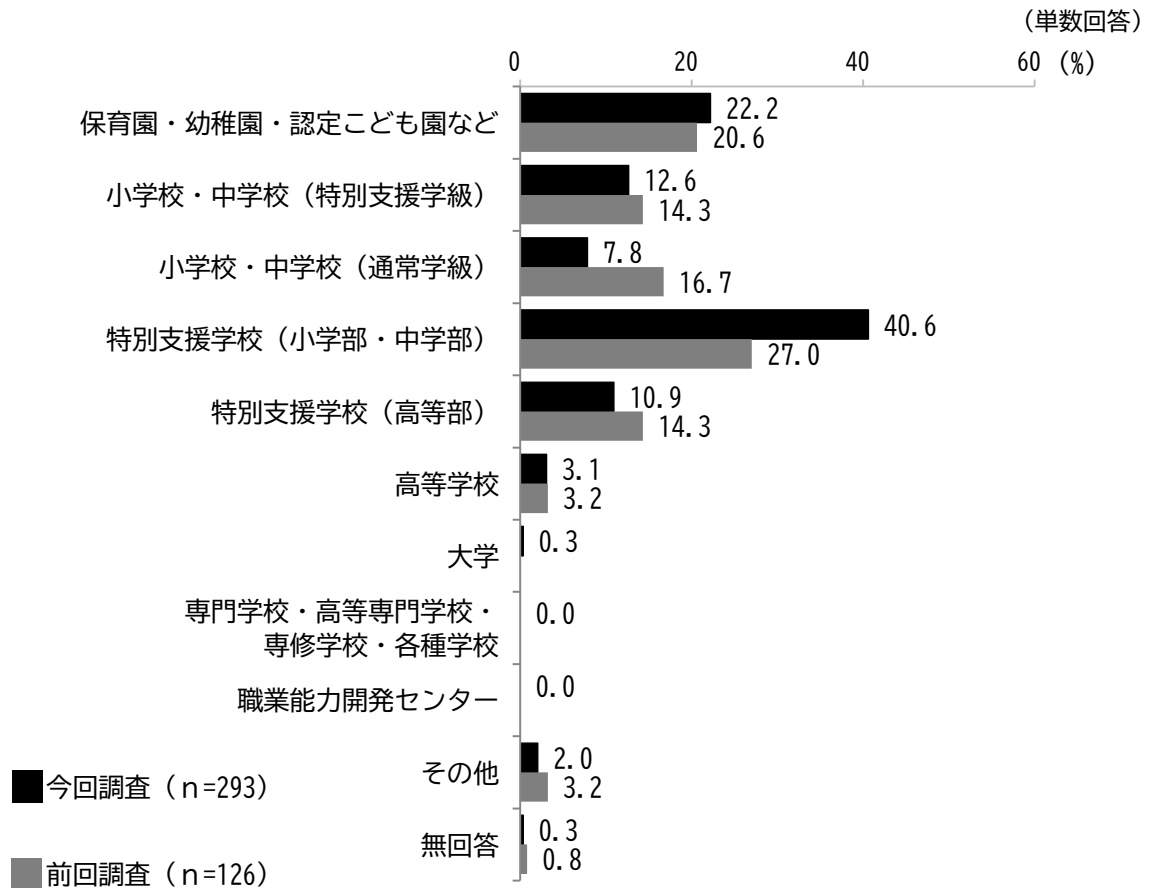
- ・ サービス情報の取得先は、「相談支援専門員(事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人)」が28.8%と最も高く、次いで「広報えどがわ・区のホームページ・えどがわ区民ニュース」が24.0%、「家族・知人」が19.8%となっている。
- ・ 前回調査と比較すると、「相談支援専門員(事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人)」が16.3ポイント、「通所施設」が10.4ポイント高くなっている。



【通園・通学について】

＜現在の通園・通学先について＞

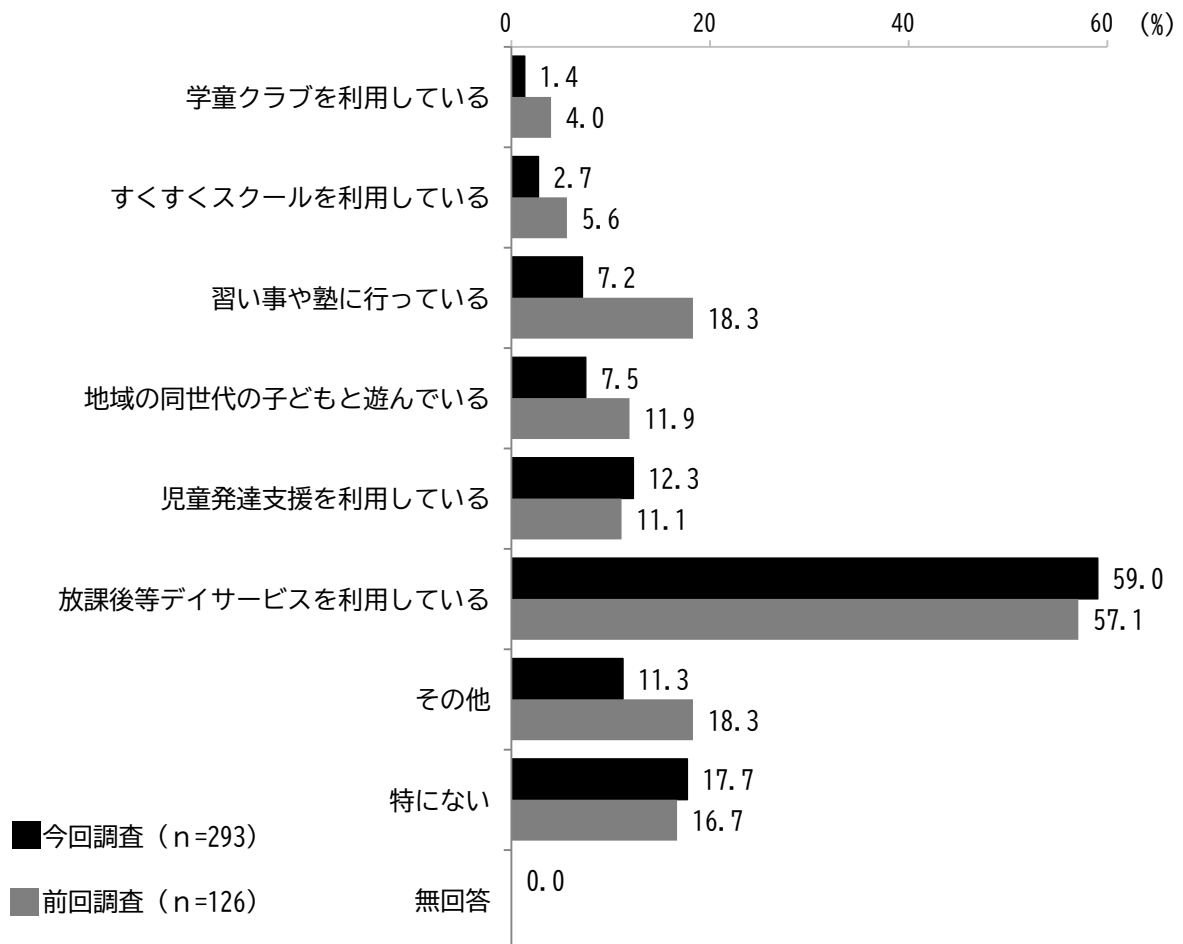
- ・ 通園・通学先は、「特別支援学校(小学部・中学部)」が40.6%と最も高く、次いで「保育園・幼稚園・認定こども園など」が22.2%、「小学校・中学校(特別支援学級)」が12.6%となっている。
- ・ 前回調査と比較すると、「特別支援学校(小学部・中学部)」が13.6ポイント高くなっている。



<放課後や休みの日の過ごし方について>

- ・ 放課後や休みの日の過ごし方については、「放課後等デイサービスを利用している」が 59.0%と最も高く、次いで「特にない」が 17.7%、「児童発達支援を利用している」が 12.3%となっている。
- ・ 前回調査と比較すると、「習い事や塾に行っている」が 11.1 ポイント低くなっている。

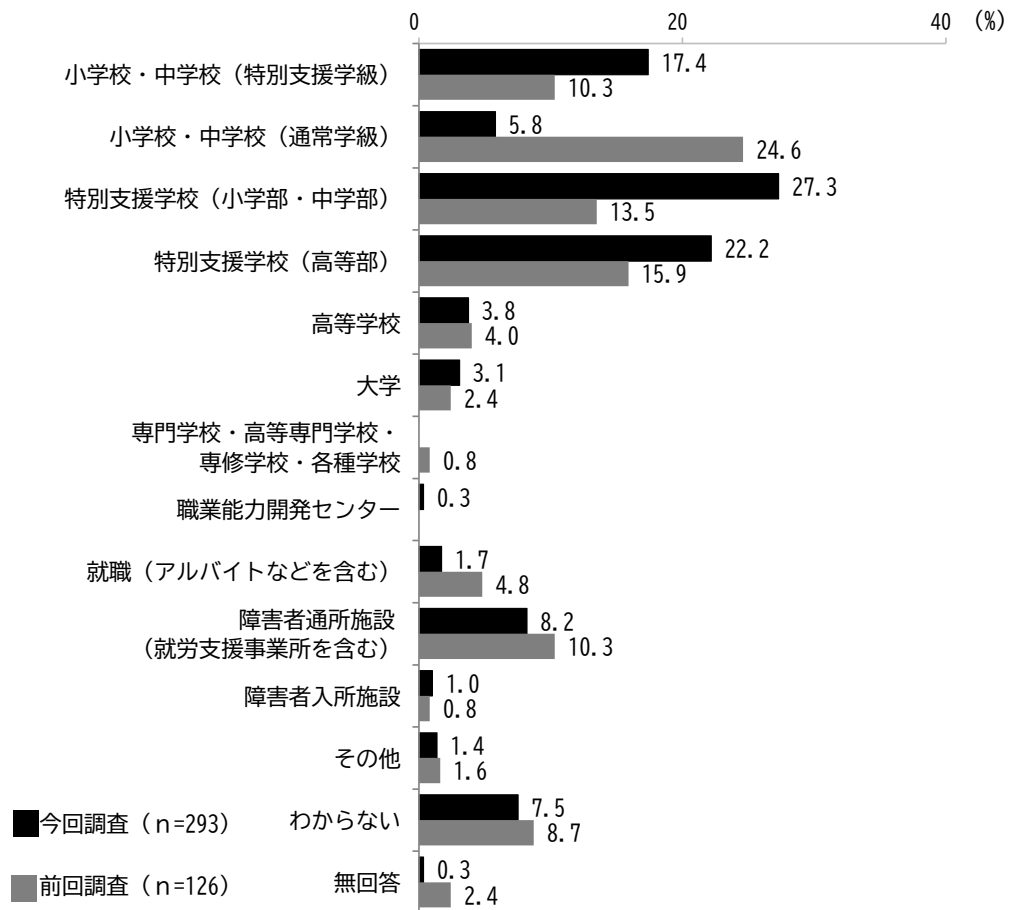
(複数回答)



<現在通学中の学校を卒業後の進路希望について>

- ・卒業後の進路については、「特別支援学校(小学部・中学部)」が 27.3%と最も高く、次いで「特別支援学校(高等部)」が 22.2%、「小学校・中学校(特別支援学級)」が 17.4%となっている。
- ・前回調査と比較すると、「小学校・中学校(通常学級)」が 18.8 ポイント低くなっている。

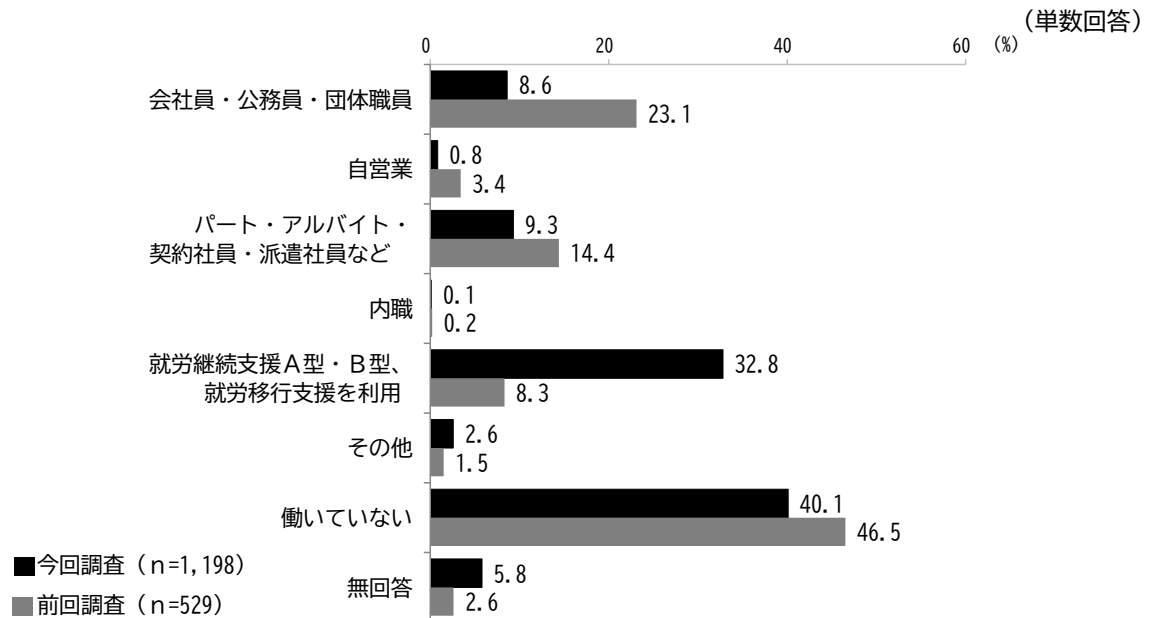
(単数回答)



【仕事の状況や今後の希望について(18歳以上の方)】

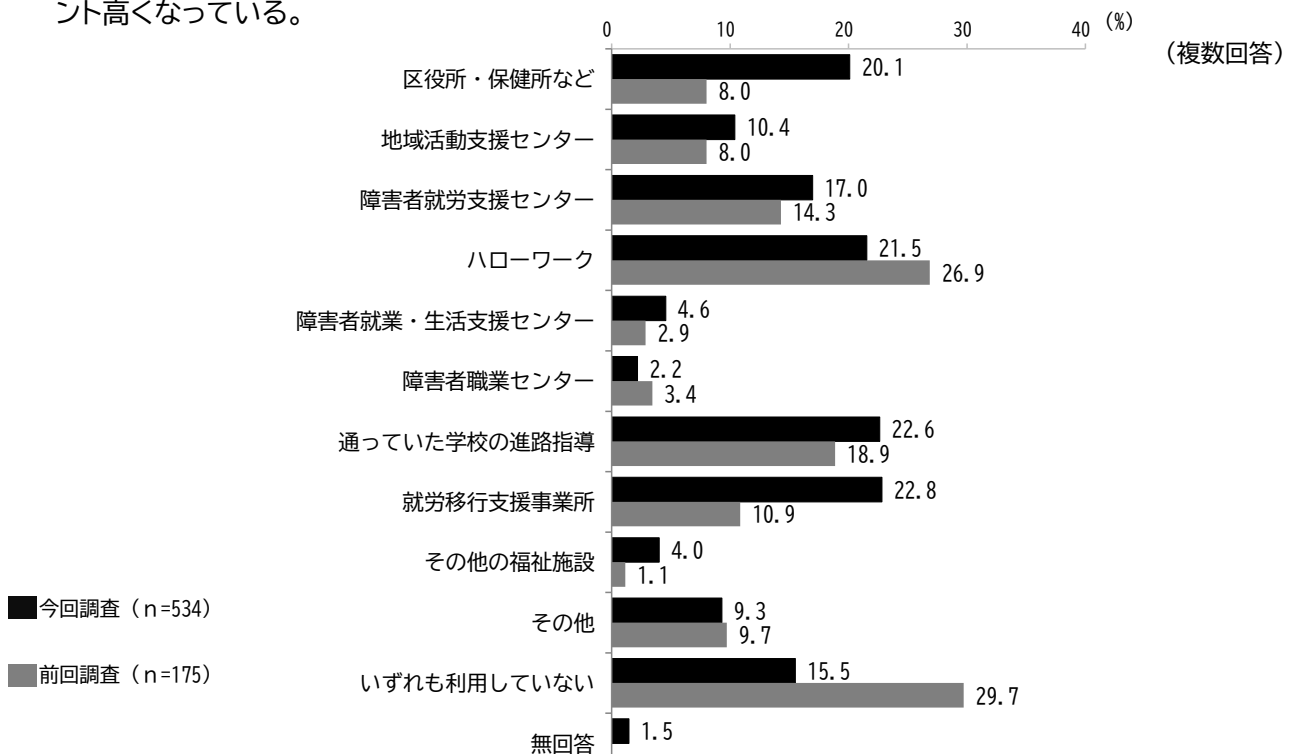
<現在の働き方について>

- ・現在の働き方について、「働いていない」が 40.1%と最も高く、次いで「就労継続支援A型・B型、就労移行支援を利用」が 32.8%、「パート・アルバイト・契約社員・派遣社員など」が 9.3%となっている。
- ・前回調査と比較すると、「働いていない」が 6.4 ポイント低くなり、「就労継続支援A型・B型、就労移行支援を利用」が 24.5 ポイント高くなっている。



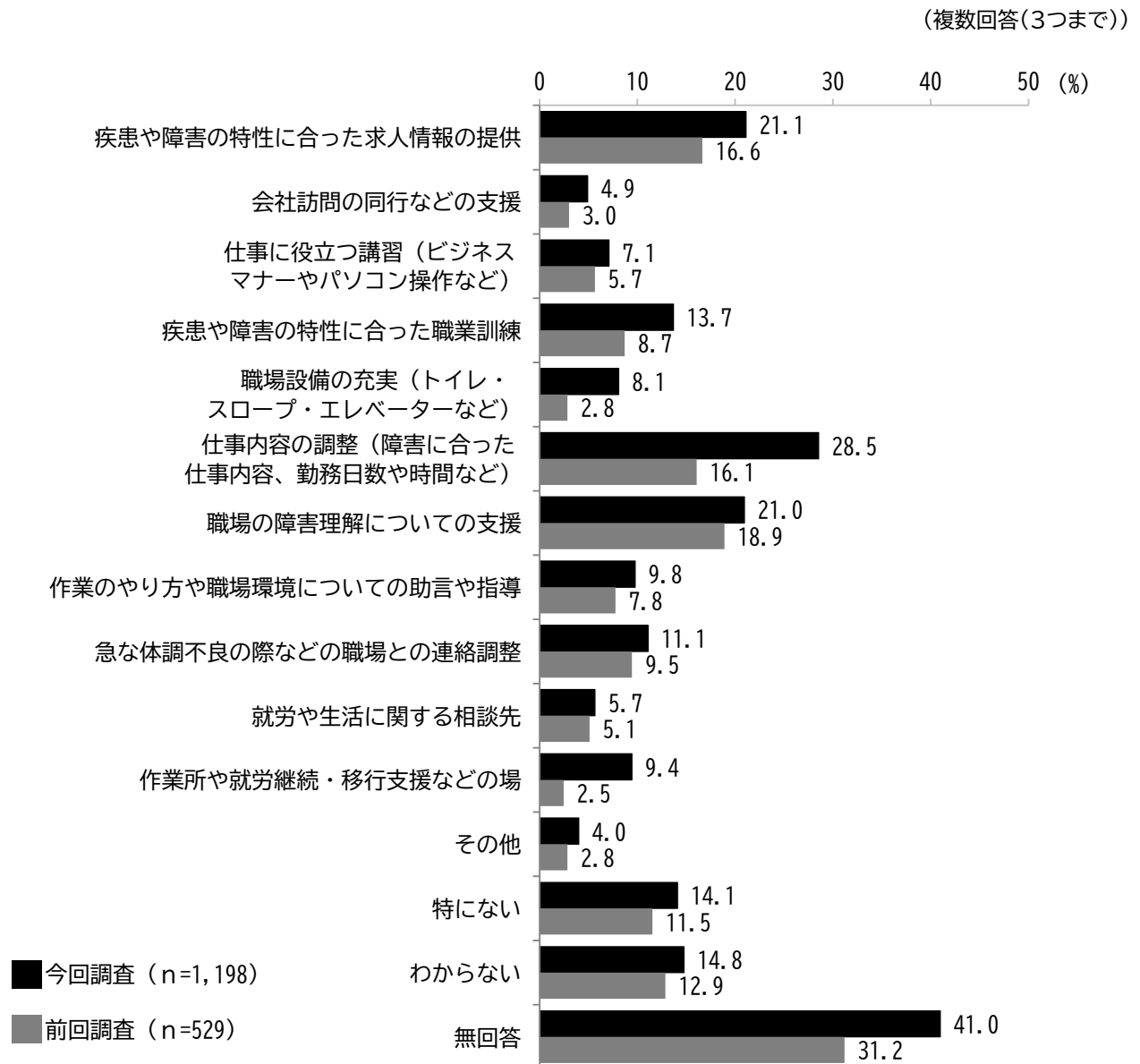
<就職するときに利用した機関について>

- ・就職するときに利用した機関について、「就労移行支援事業所」が 22.8%と最も高く、次いで「通っていた学校の進路指導」が 22.6%、「ハローワーク」が 21.5%となっている。
- ・前回調査と比較すると、「就労移行支援事業所」が 11.9 ポイント、「区役所・保健所など」が 12.1 ポイント高くなっている。



<働くことへの支援について>

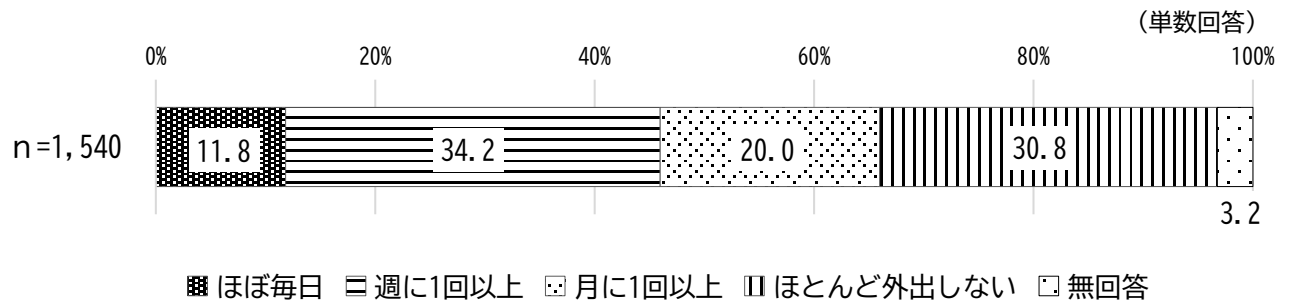
- ・ 働くためにあったらよい支援について、「仕事内容の調整(障害に合った仕事内容、勤務日数や時間など)」が28.5%と最も高く、次いで「疾患や障害の特性に合った求人情報の提供」が21.1%、「職場の障害理解についての支援」が21.0%となっている。
- ・ 前回調査と比較すると、「仕事内容の調整(障害に合った仕事内容、勤務日数や時間など)」が12.4ポイント高くなっている。



【趣味の活動や地域の活動について】

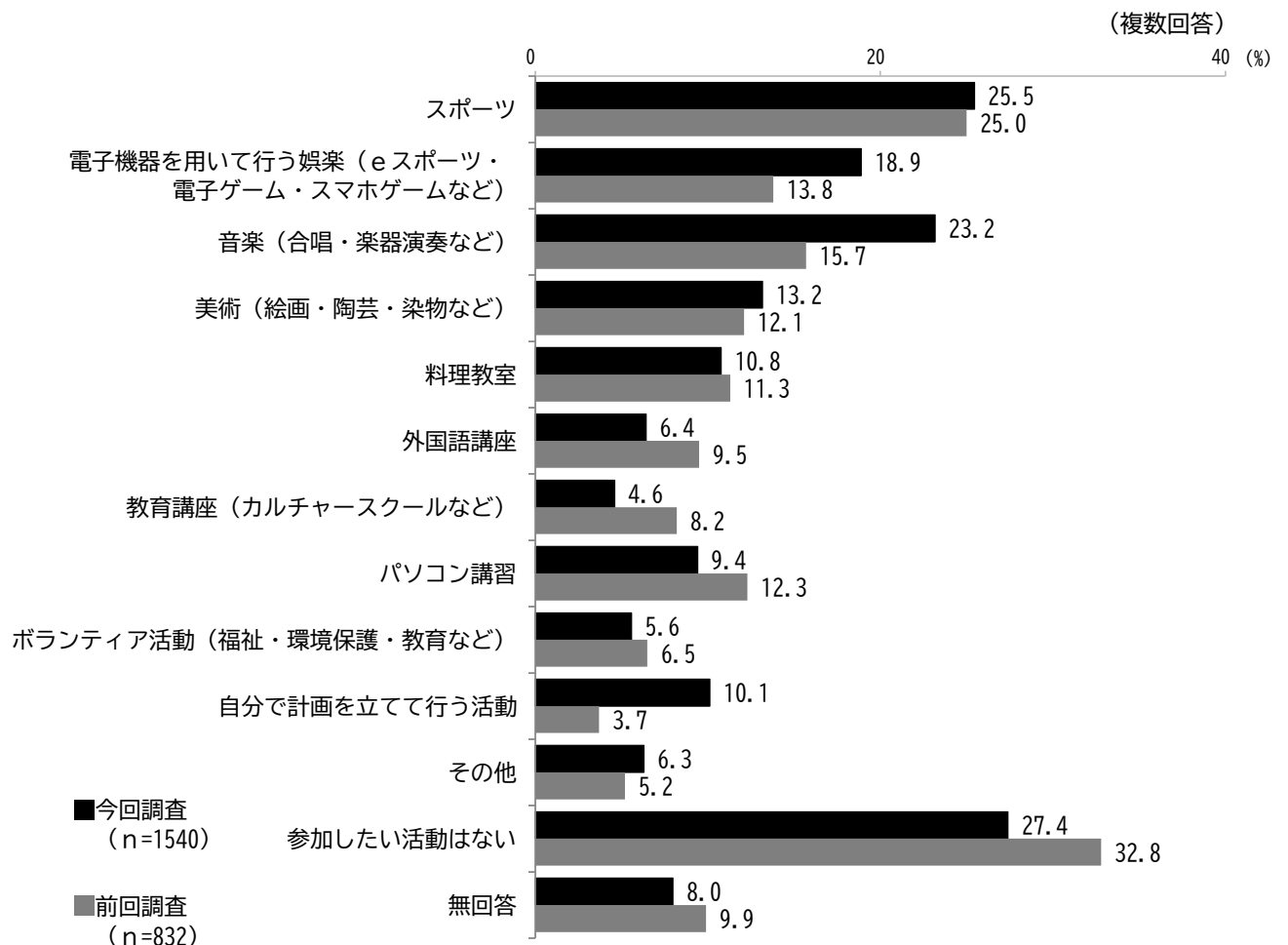
<趣味や地域の活動への外出頻度>

- ・ 外出頻度について、「週に1回以上」が34.2%と最も高く、次いで「ほとんど外出しない」が30.8%、「月に1回以上」が20.0%となっている。



<活動内容について>

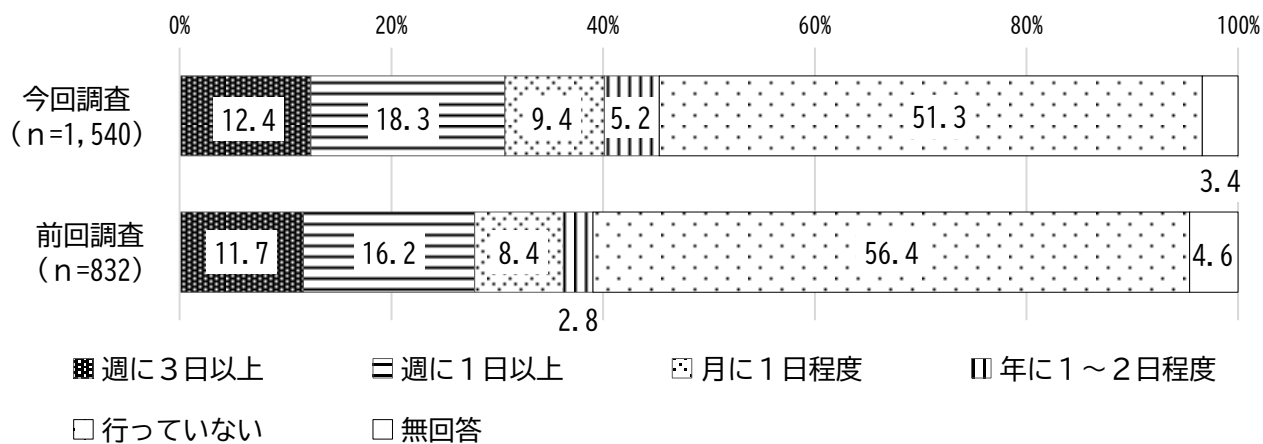
- ・ 取り組んでみたい活動については、「参加したい活動はない」が27.4%と最も高く、次いで「スポーツ」が25.5%、「音楽(合唱・楽器演奏など)」が23.2%となっている。
- ・ 前回調査と比較すると、「音楽(合唱・楽器演奏など)」が7.5ポイント高くなり、「参加したい活動はない」が5.4ポイント低下している。



<過去1年間のスポーツ活動について>

- ・ スポーツ活動の頻度については、「行っていない」が51.3%と最も高く、次いで「週に1日以上」が18.3%、「週に3日以上」が12.4%となっている。

(単数回答)

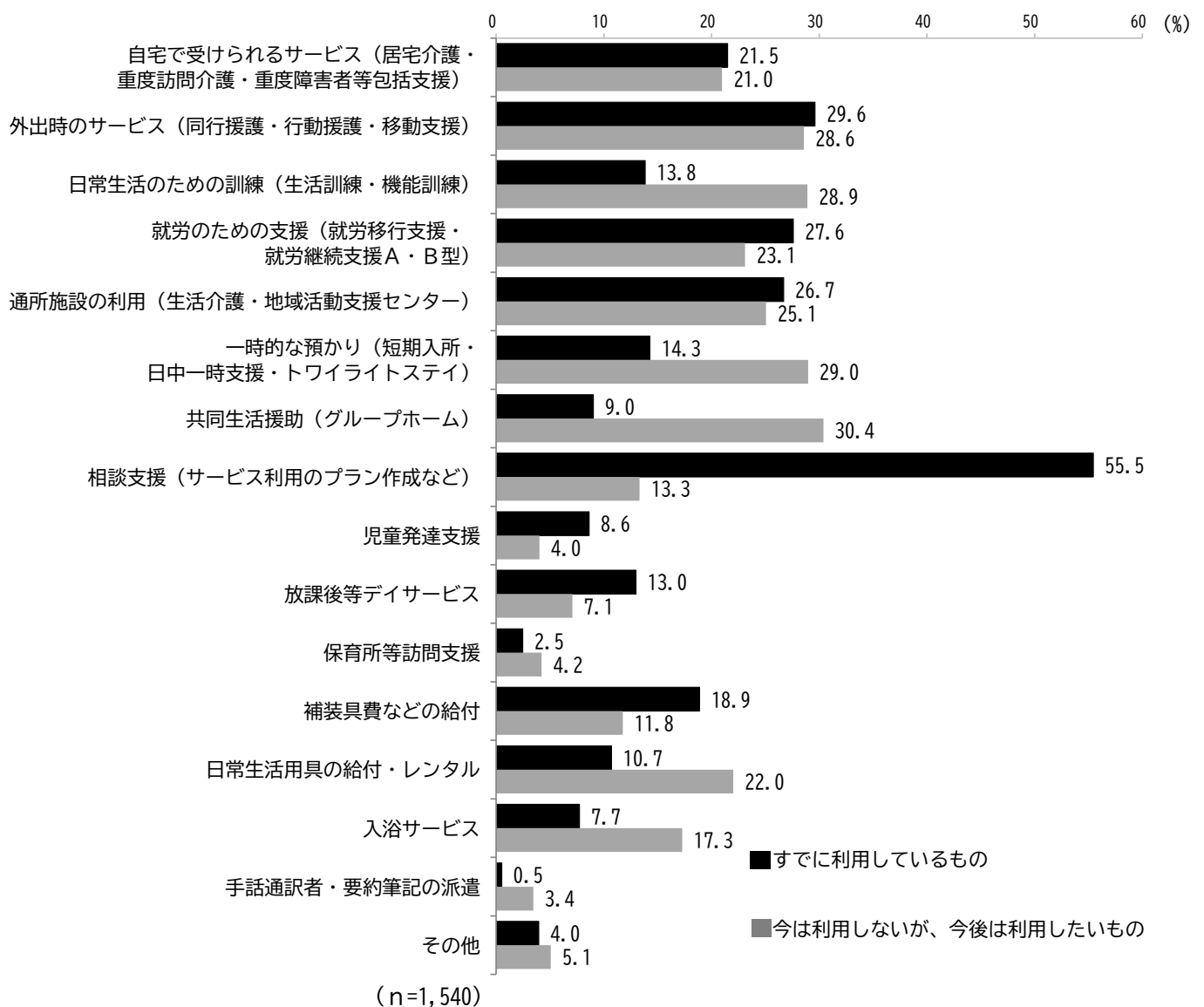


【サービスの利用等について】

＜障害福祉サービスの利用について＞

- ・すでに利用しているものとしては、「相談支援(サービス利用のプラン作成など)」が55.5%と最も高く、次いで「外出時のサービス(同行援護・行動援護・移動支援)」が29.6%、「就労のための支援(就労移行支援・就労継続支援A・B型)」が27.6%となっている。
- ・今は利用しないが、今後は利用したいものは、「共同生活援助(グループホーム)」が30.4%と最も高く、次いで「一時的な預かり(短期入所・日中一時支援・トワイライトステイ)」が29.0%、「日常生活のための訓練(生活訓練・機能訓練)」が28.9%となっている。

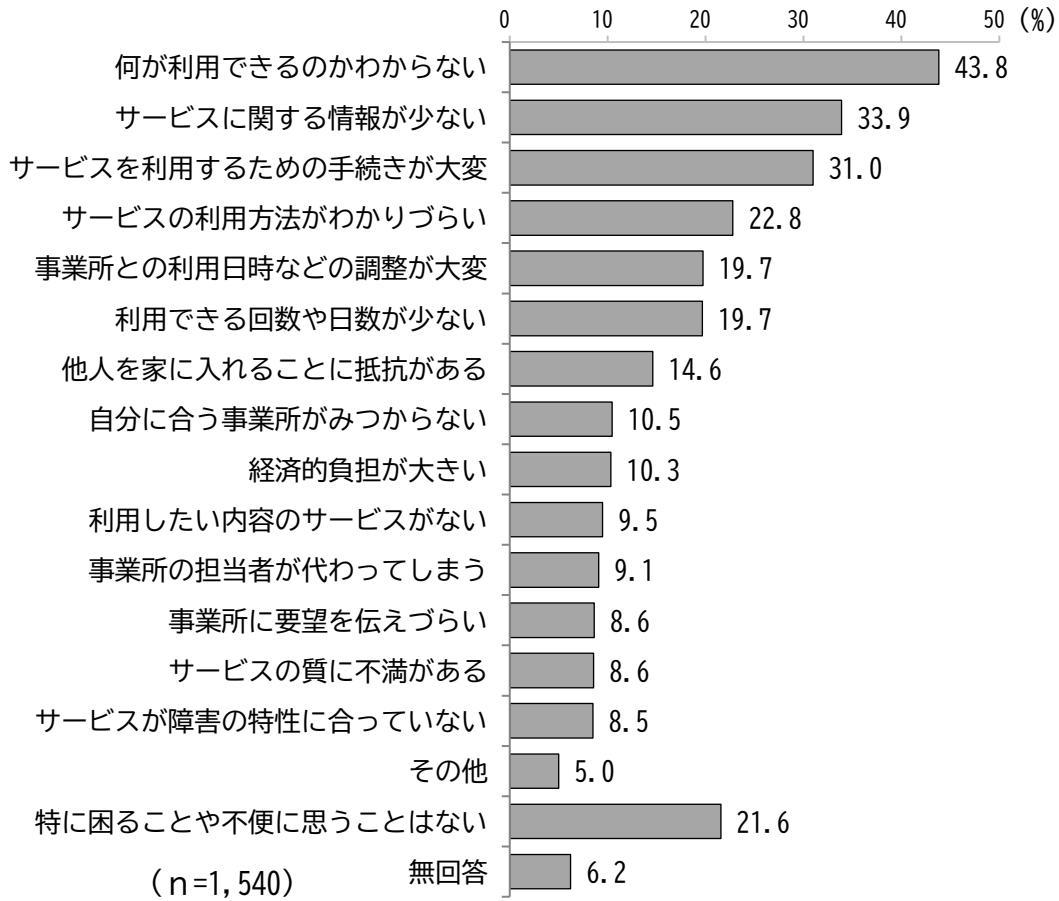
(複数回答)



<障害福祉サービス利用時に困ったり、不便と思うこと>

- ・ 障害福祉サービス利用時に不便だと思うことについては、「何が利用できるのかわからない」が43.8%と最も高く、次いで「サービスに関する情報が少ない」が33.9%、「サービスを利用するための手続きが大変」が31.0%となっている。

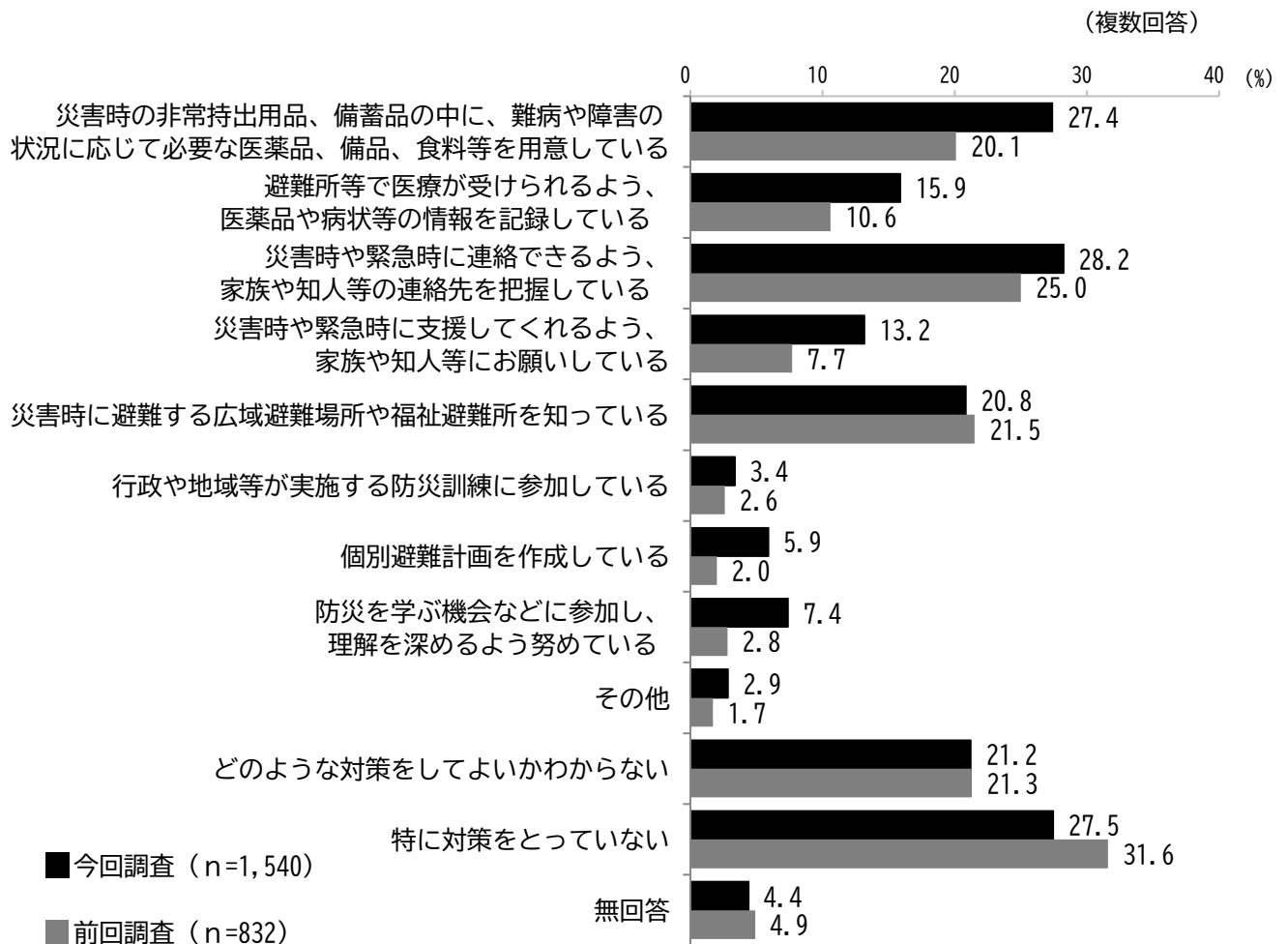
(複数回答)



【災害時の対応について】

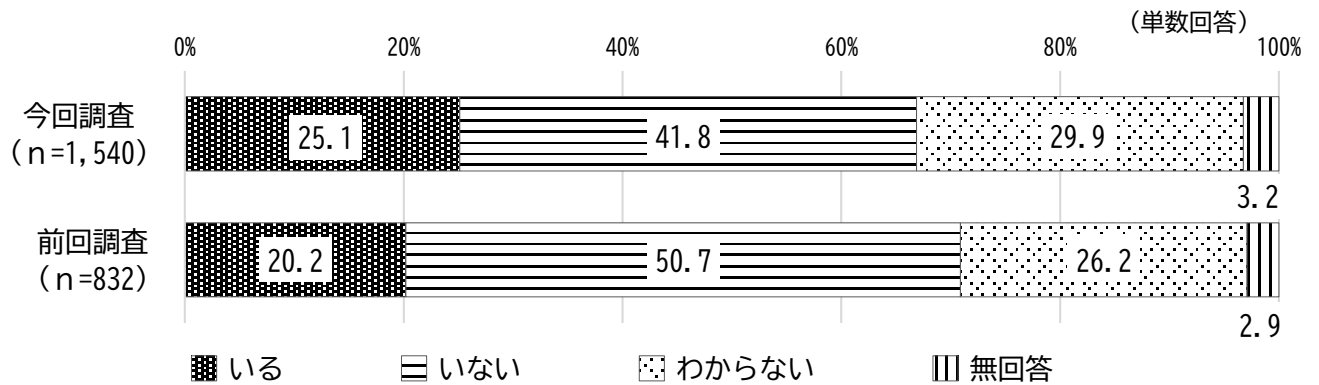
<災害への備えや対策について>

- ・ 災害への備えについては、「災害時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人等の連絡先を把握している」が 28.2%と最も高く、次いで「特に対策をとっていない」が 27.5%、「災害時の非常持出用品、備蓄品の中に、難病や障害の状況に応じて必要な医薬品、備品、食料等を用意している」が 27.4%となっている。
- ・ 前回調査と比較すると、「災害時の非常持出用品、備蓄品の中に、難病や障害の状況に応じて必要な医薬品、備品、食料等を用意している」が 7.3 ポイント高くなっている。



<災害時に一人でいた場合、近所で助けてくれる人の有無>

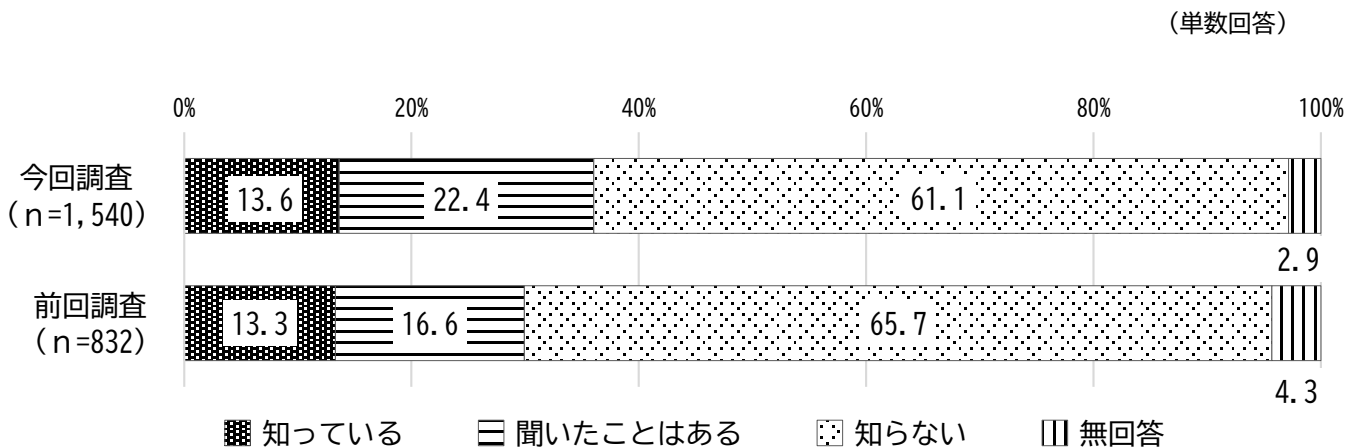
- ・ 災害時に助けてくれる人の有無については、「いない」が 41.8%と最も高く、次いで「わからない」が 29.9%となっている。
- ・ 前回調査と比較すると、「いない」は 8.9 ポイント低くなっている。



【障害者差別について】

<障害者差別解消法の認知について>

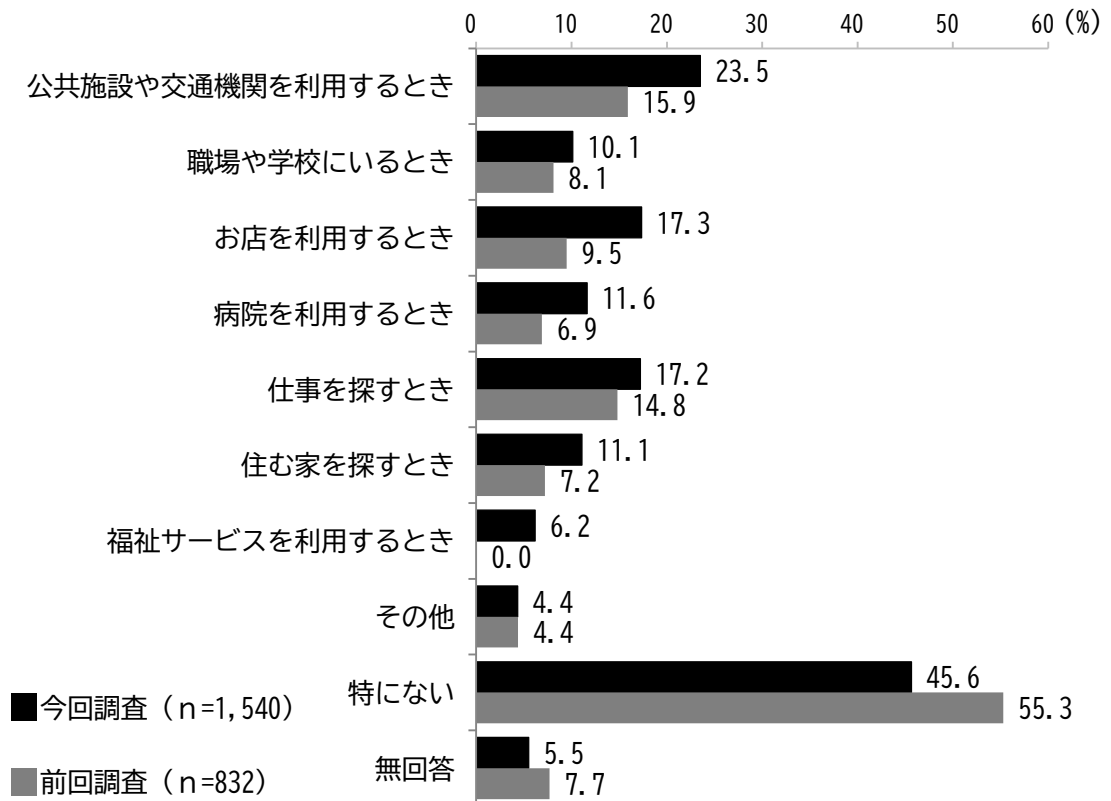
- ・ 障害者差別解消法の認知については、「知らない」が 61.1%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が 22.4%、「知っている」が 13.6%となっている。
- ・ 前回調査と比較すると、「知っている」「聞いたことがある」が合わせて 6.1 ポイント高くなっている。



<障害を理由に差別を感じることにについて>

- ・ 差別を感じることにについては、「特にない」が45.6%と最も高く、次いで「公共施設や交通機関を利用するとき」が23.5%、「お店を利用するとき」17.3%となっている。
- ・ 前回調査と比較すると、「お店を利用するとき」が7.8ポイント、「公共施設や交通機関を利用するとき」が7.6ポイント高くなっている。

(複数回答)

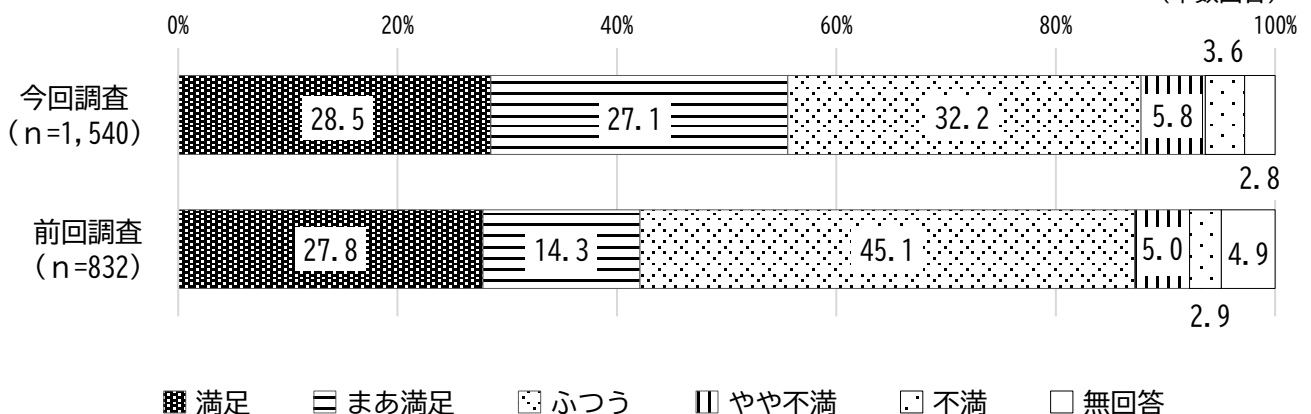


【現在の暮らしと今後のことについて】

<江戸川区での暮らしへの満足度>

- ・ 江戸川区の暮らしへの満足度については、「ふつう」が32.2%と最も高く、次いで「満足」が28.5%、「まあ満足」が27.1%となっている。
- ・ 「満足」「まあ満足」を合計した割合は55.6%となっており、前回調査の42.1%と比較すると、13.5ポイント高くなっている。

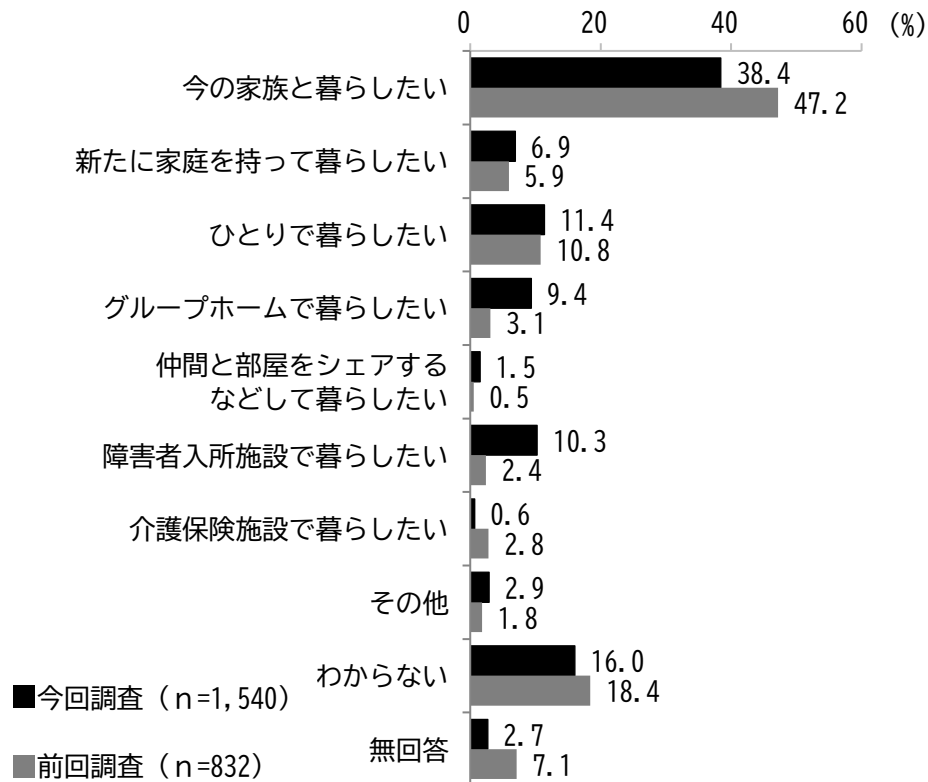
(単数回答)



<将来希望する暮らし>

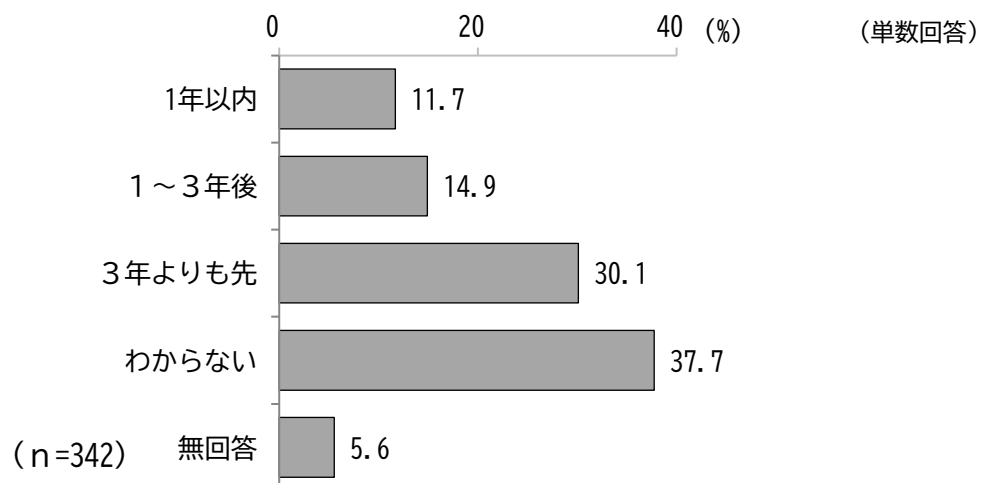
- ・ 将来の暮らし方について、「今の家族と暮らしたい」が 38.4%と最も高く、次いで「わからない」が 16.0%、「ひとりで暮らしたい」が 11.4%となっている。

(単数回答)



<将来希望する暮らしは、何年後くらいを考えているか>

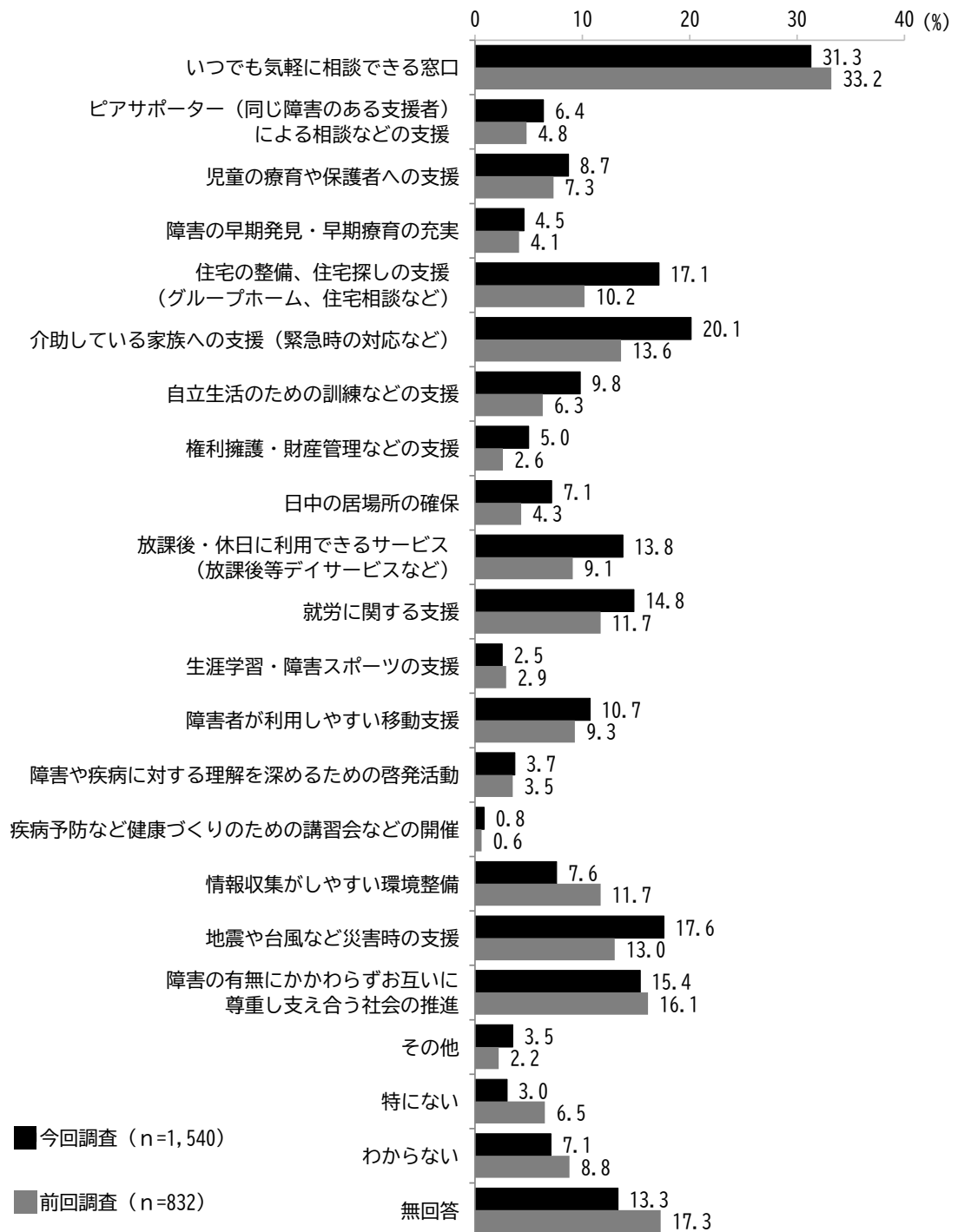
- ・ 年数は、「わからない」が37.7%と最も高く、次いで「3年よりも先」が30.1%、「1～3年後」14.9%となっている。



<充実すべき障害者(児)福祉施策>

- ・ 充実させていくべき区の障害者(児)福祉については、「いつでも気軽に相談できる窓口」が 31.3%と最も高く、次いで「介助している家族への支援(緊急時の対応など)」が 20.1%、「地震や台風などの災害時の支援」が 17.6%となっている。
- ・ 前回調査と比較すると、「住宅の整備、住宅探しの支援(グループホーム、住宅相談など)」が 6.9 ポイント、「介助している家族への支援(緊急時の対応など)」が 6.5 ポイント増加している。

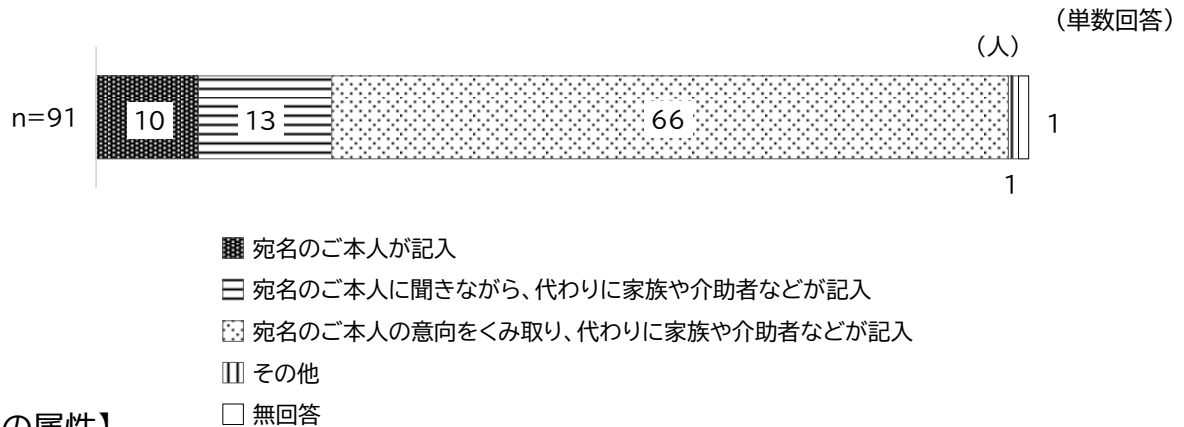
(複数回答(3つまで))



医療的ケア者・児調査

【回答者の属性】

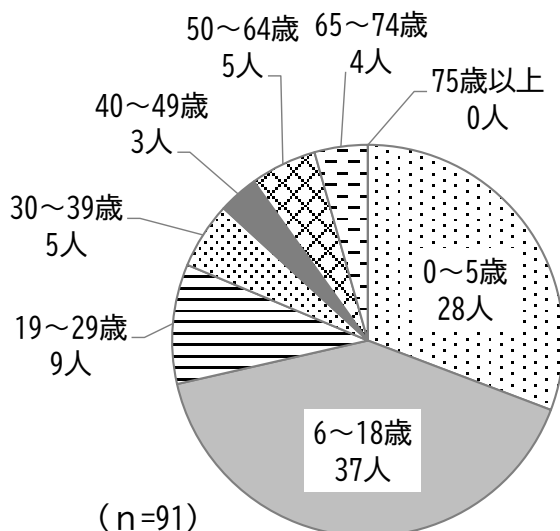
- 回答者の属性は、「宛名のご本人の意向をくみ取り、代わりに家族や介助者などが記入」が66人と最も多く、次いで「宛名のご本人に聞きながら、代わりに家族や介助者などが記入」が13人、「宛名のご本人が記入」が10人となっている。



【本人の属性】

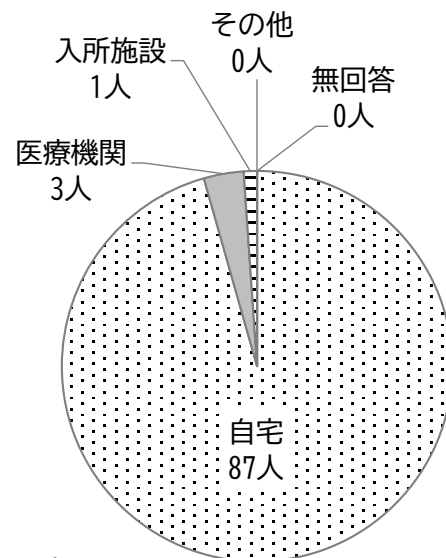
<年齢「令和7年10月1日現在」> (単数回答)

- ご本人の属性は、「6～18歳」が37人と最も多く、次いで「0～5歳」が28人、「19～29歳」が9人となっている。



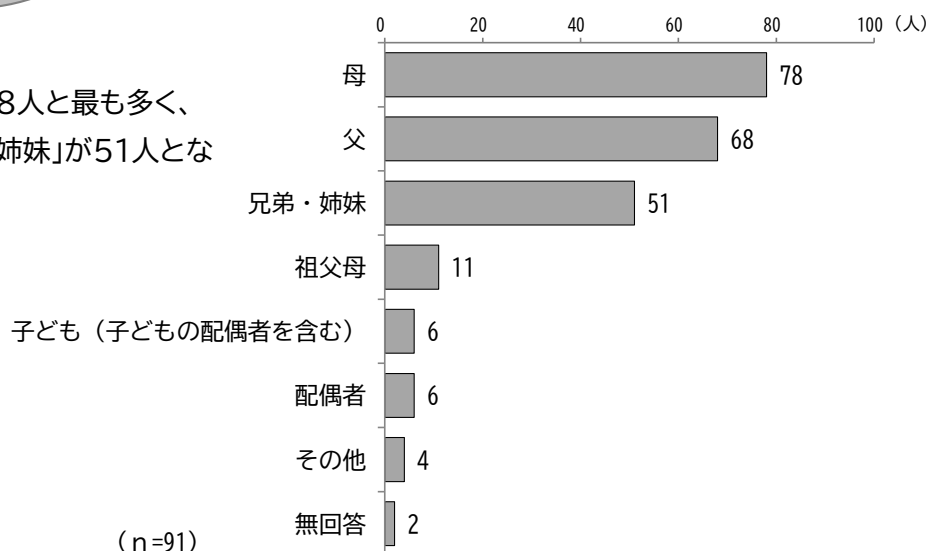
<生活場所> (単数回答)

- 生活している場所は、「自宅」が87人と最も多く、次いで「医療機関」が3人となっている



<同居家族> (複数回答)

- 同居している人は、「母」が78人と最も多く、次いで「父」が68人、「兄弟・姉妹」が51人となっている

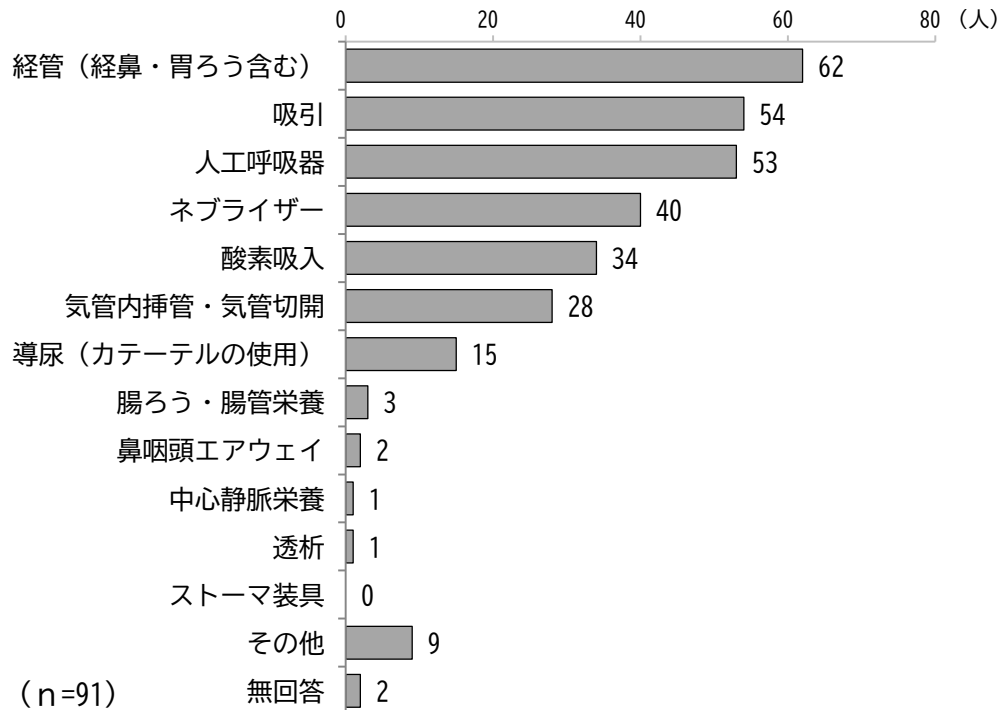


【本人の状況について】

<必要とする医療的ケア>

- ・必要とする医療的ケアは、「経管(経鼻・胃ろう含む)」が62人と最も多く、次いで「吸引」が54人、「人工呼吸器」が53人となっている。

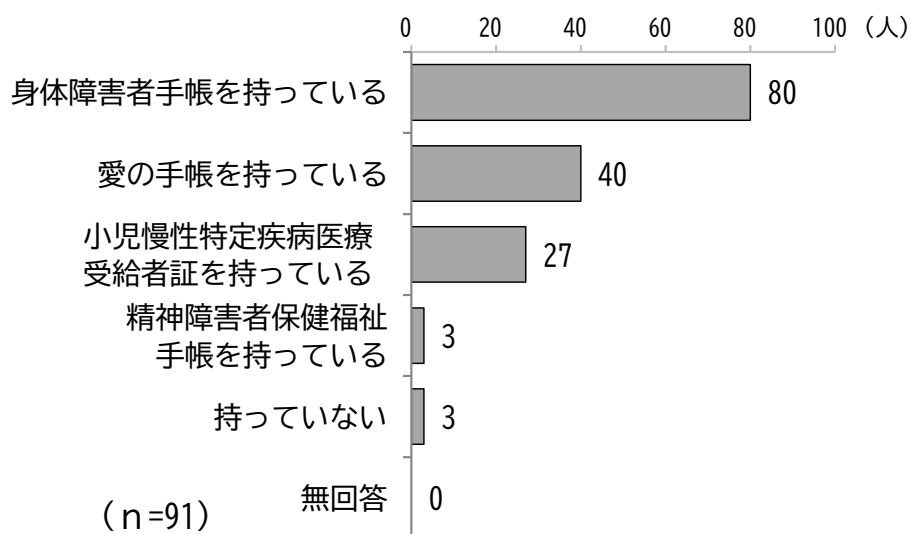
(複数回答)



<障害者手帳の種類>

- ・手帳の所持状況は、「身体障害者手帳を持っている」が80人と最も多く、次いで「愛の手帳を持っている」が40人、「小児慢性特定疾病医療受給者証を持っている」が27人となっている。

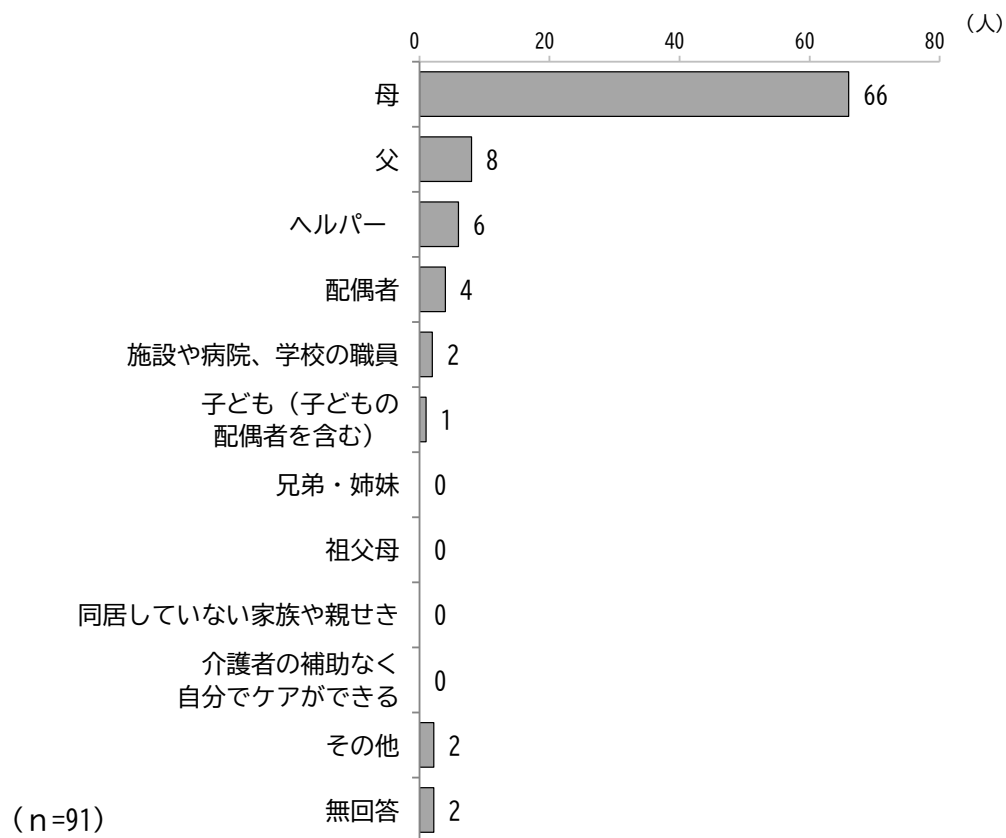
(複数回答)



<主な介助・支援者>

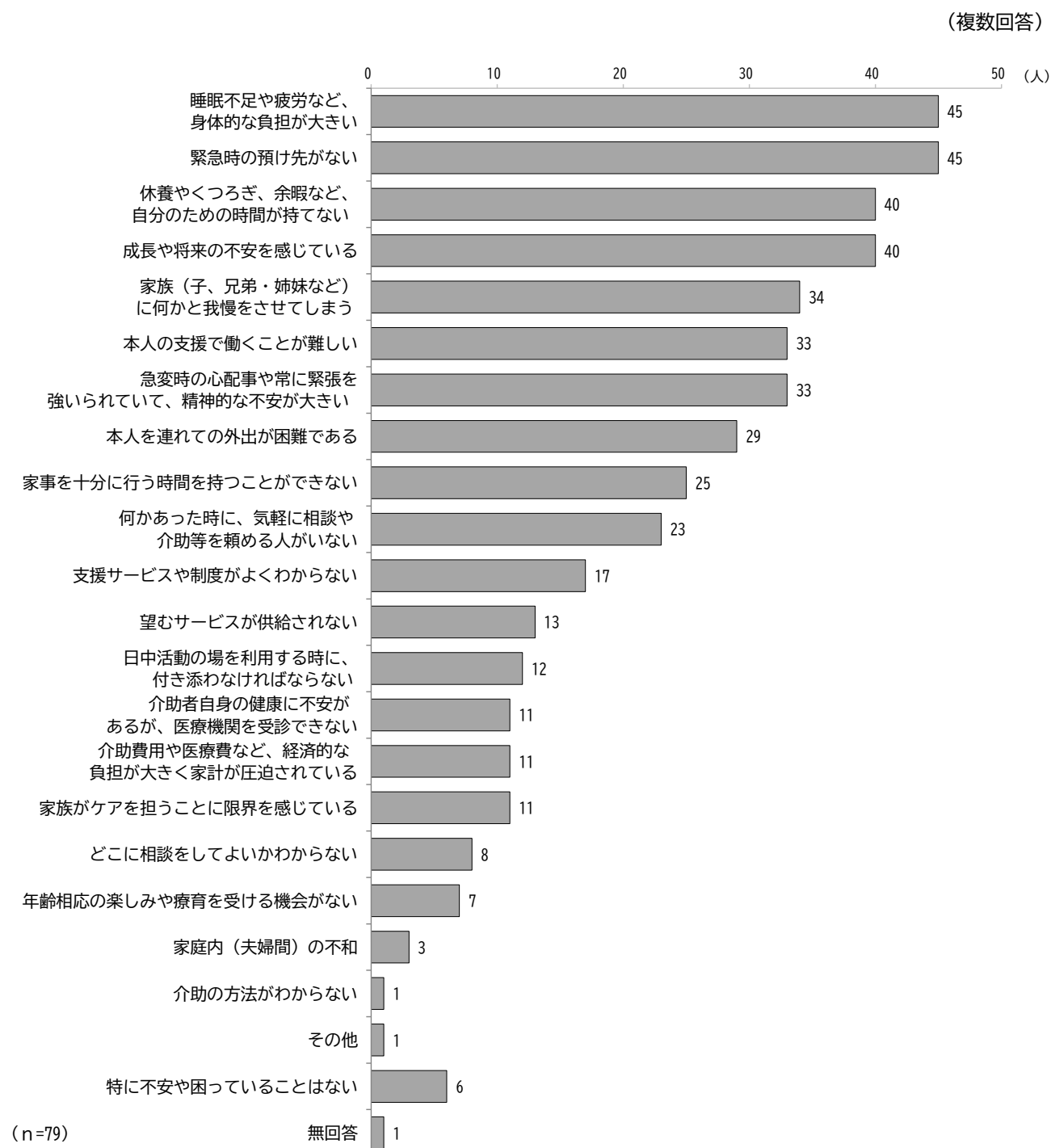
- ・ 主な介助者・支援者は、「母」が66人と最も多く、次いで「父」が8人、「ヘルパー」が6人となっている。

(単数回答)



<介助においての悩みや不安(介助者への質問)>

- ・ 介助の悩みや不安は、「睡眠不足や疲労など、身体的な負担が大きい」、「緊急時の預け先がない」が45人と最も多く、次いで「休養やくつろぎ、余暇など、自分のための時間が持てない」、「成長や将来の不安を感じている」が40人となっている。



<介助においての不安や悩みの具体的な内容について(介助者への質問)>

- ・ どのような不安や悩みがあるかについて、記述してもらったところ、59 件の貴重な意見をいただいた。1人で2つ以上回答している場合は、それぞれカウントしているため件数は延べ件数となっている。なお、主なものを要約して掲載している。

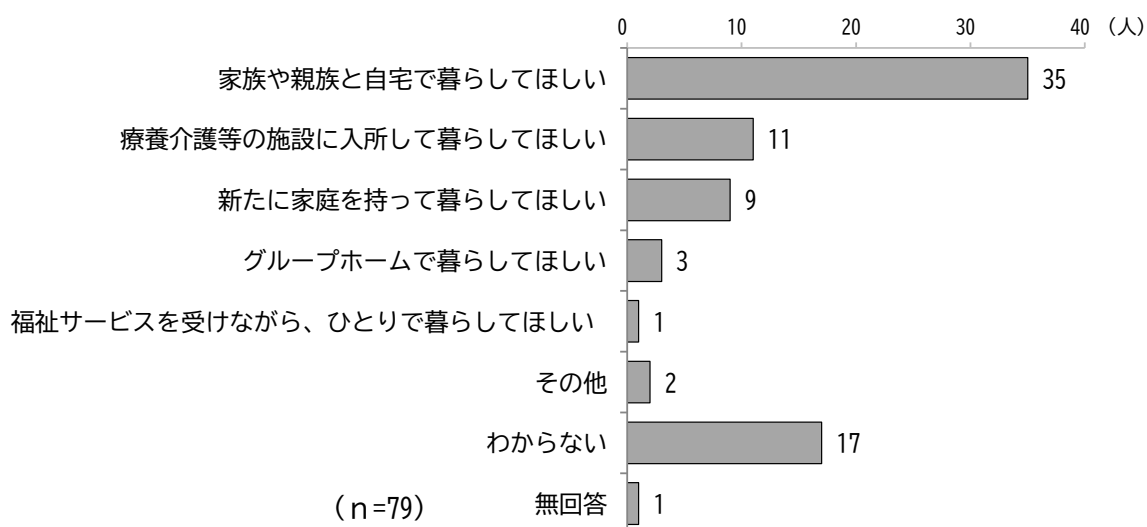
(自由記述)

分類	内容(抜粋・要約)
日常生活上の不便や支援ニーズ (28件)	・ 親が倒れた時に寝たきりの子供はどうなるのか、漠然とした不安がある。 ・ 短期入所施設が少なく、預けたい時に利用できない。(6件) ・ 緊急時に預かってもらえる場所がない。 ・ 在宅レスパイトを申請しているが、訪問ステーションが土日祝休みなため、土日祝は利用できない。 ・ レスパイトに落選して利用できないため、区独自で引き受けてくれる病院を複数みつけてほしい。 ・ 医療的ケア児が入れる放課後等デイサービスが少ない。(3件) ・ 様々な医療機器を持ち歩く必要があるため、遠くまで移動ができない。 ・ 交通機関を利用した移動ができない。(2 件) ・ ヘルパーがなかなか見つからない。 ・ 支援サービスがあっても高度な医療ケアが必要な場合は利用できない。
災害について (1 件)	・ 災害時、母 1 人では避難出来ないだろうと漠然とした不安がある。
体調について (1 件)	・ 子どもの体調について常に心配。
介助者・家族の負担や成長に伴う将来的な負担 (25件)	・ 付き添いや学校からの呼び出しが多く、自分の時間が持てない。 ・ 将来の病状の変化や就学時、進路、卒業後に通える施設があるかなど、今後の成長に際し、不明瞭なことが多く漠然とした不安がある。(7件) ・ 親亡き後に兄弟に負担がかかってしまうのではないかと不安。(2 件) ・ 両親や兄弟の健康面が不安。 ・ 親が働きたい。(2 件) ・ 将来的に介助に伴う親の体力が持つか不安。(4件)
経済面について (2件)	・ 保護者の収入制限で様々な支援制度は全て対象外となる。 ・ 通院時にタクシーを利用するため、交通費の負担が大きい。
住まいについて (2件)	・ 自宅のリフォームに、どう踏み切るかの判断が難しい。 ・ 将来的に現在の自宅で介助するのは難しいため、リフォームか引っ越しのどちらがよいか悩む。

<将来希望する暮らし(介助者への質問)>

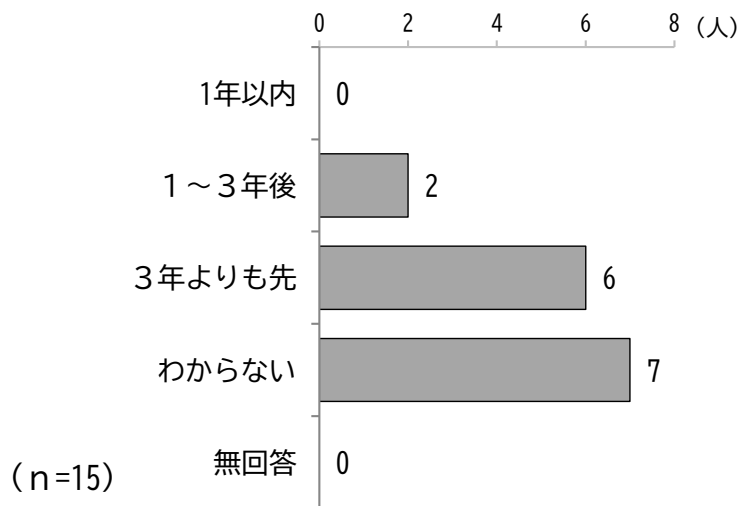
- ・ 将来の暮らし方については、「家族や親族と自宅で暮らしてほしい」が 35 人と最も多く、次いで「わからない」が 17 人、「療養介護等の施設に入所して暮らしてほしい」が11人となっている。

(単数回答)



<将来希望する暮らしは、何年後くらいを考えているか(介助者への質問)>

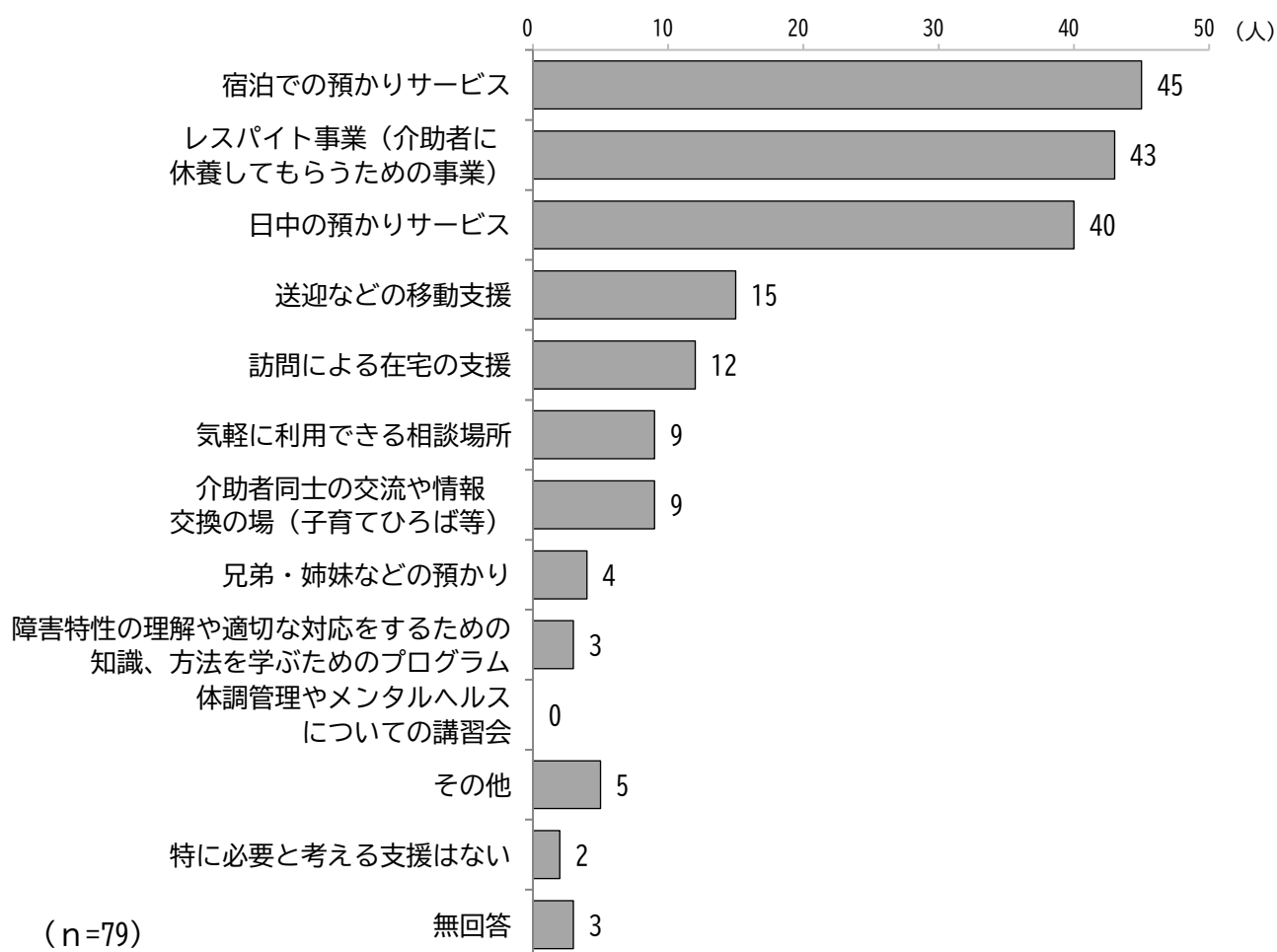
- ・ 年数は、「わからない」が 7 人と最も多く、次いで「3年よりも先」が 6 人、「1～3年後」が2人となっている。



< 介助負担軽減のために充実してほしいこと(介助者への質問)>

- ・ 家族で介助する方への支援策は、「宿泊での預かりサービス」が45人と最も多く、次いで「レスパイト事業」が43人、「日中の預かりサービス」が40人となっている。

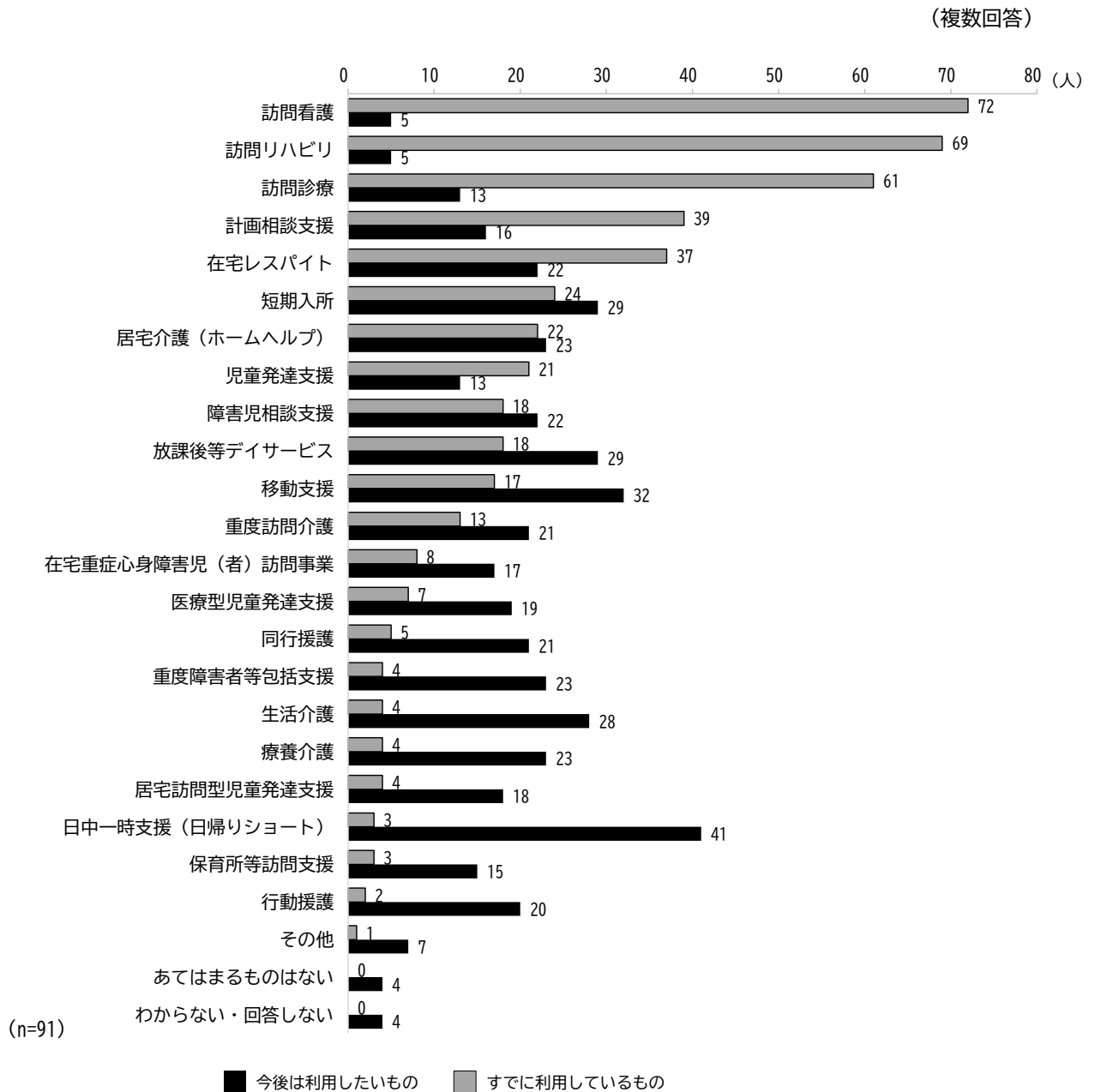
(複数回答)



【サービスの利用等について】

<現在利用している、在宅医療サービス、障害福祉サービス>

- ・すでに利用しているものは、「訪問看護」が 72 人と最も多く、次いで「訪問リハビリ」が 69 人、「訪問診療」が 61 人となっている。
- ・今後は利用したいものは、「日中一時支援(日帰りショート)」が41人と最も多く、次いで「移動支援」が 32人、「短期入所」、「放課後等デイサービス」が29人となっている

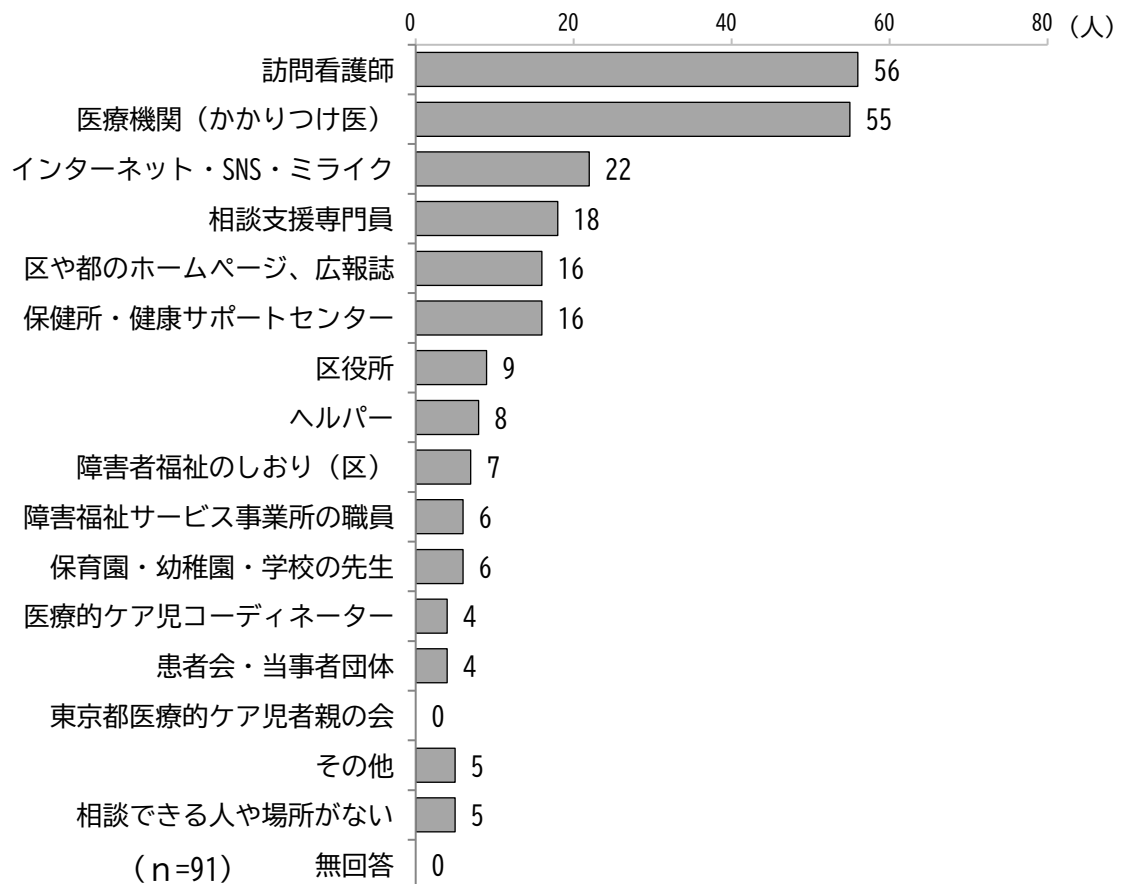


【情報入手について】

<医療的ケアに関する情報の入手先>

- ・ 情報の取得先は、「訪問看護師」が56人と最も多く、次いで「医療機関(かかりつけ医)」が55人、「インターネット・SNS・ミライク」が22人となっている。
- ・ 年齢別では、0～5 歳では「訪問看護師」が、6～18 歳、19 歳以上は「医療機関(かかりつけ医)」が最も多くなっている。

(複数回答)

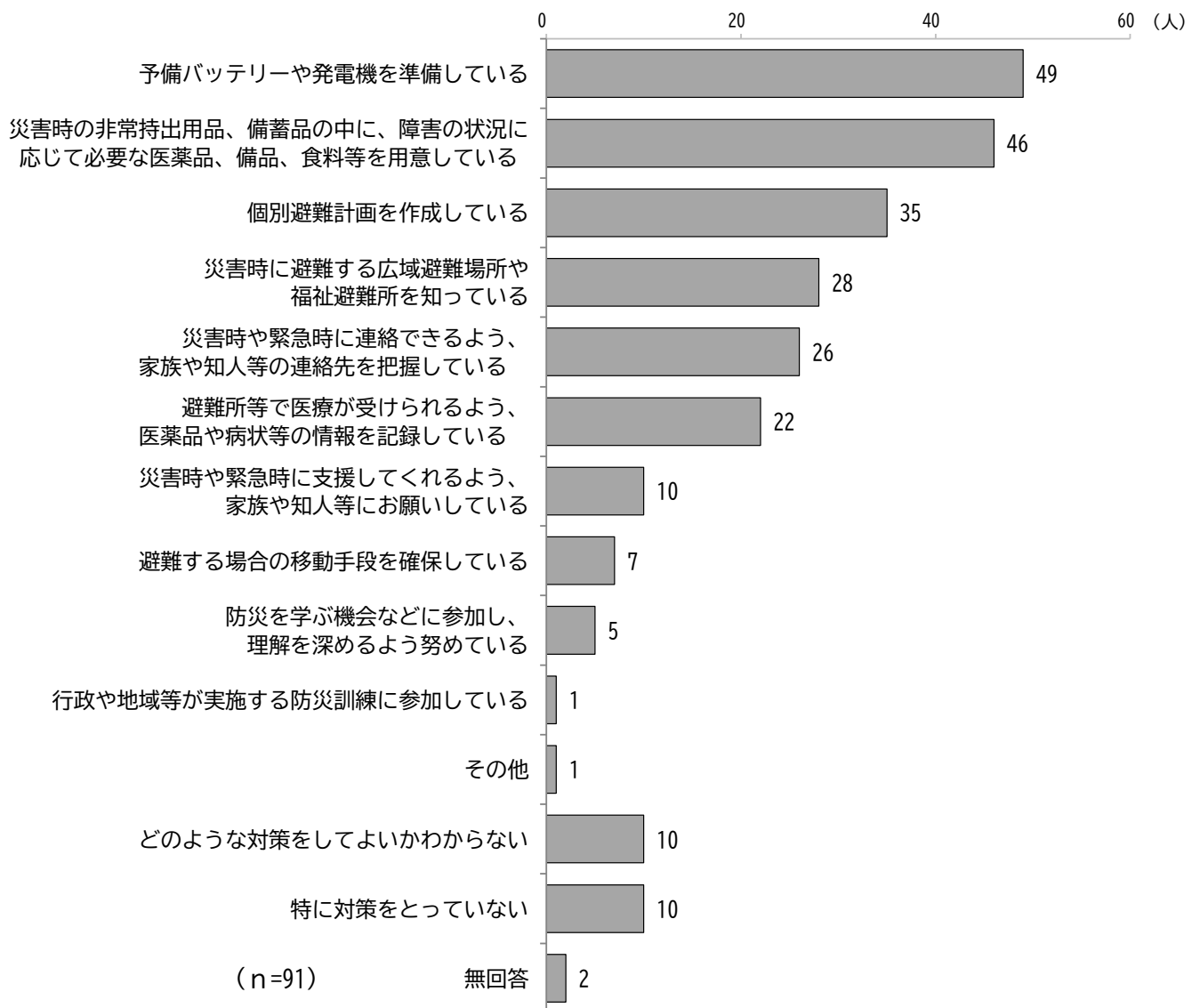


【災害時の対応について】

<災害への備えや対策について>

- ・ 災害に備えての対策は、「予備バッテリーや発電機を準備している」が49人と最も多く、次いで「災害時の非常持出用品、備蓄品の中に、障害の状況に応じて必要な医薬品、備品、食料等を用意している」が46人、「個別避難計画を作成している」が35人となっている。

(複数回答)



<災害時に一人でいた場合、近所で助けてくれる人の有無>

- ・ 災害時に助けてくれる人の有無については、「いない」が49人と最も多く、次いで「わからない」が23人、「いる」が18人となっている。

(単数回答)



<災害時が起きた時の不安や必要な支援の具体的な内容について>

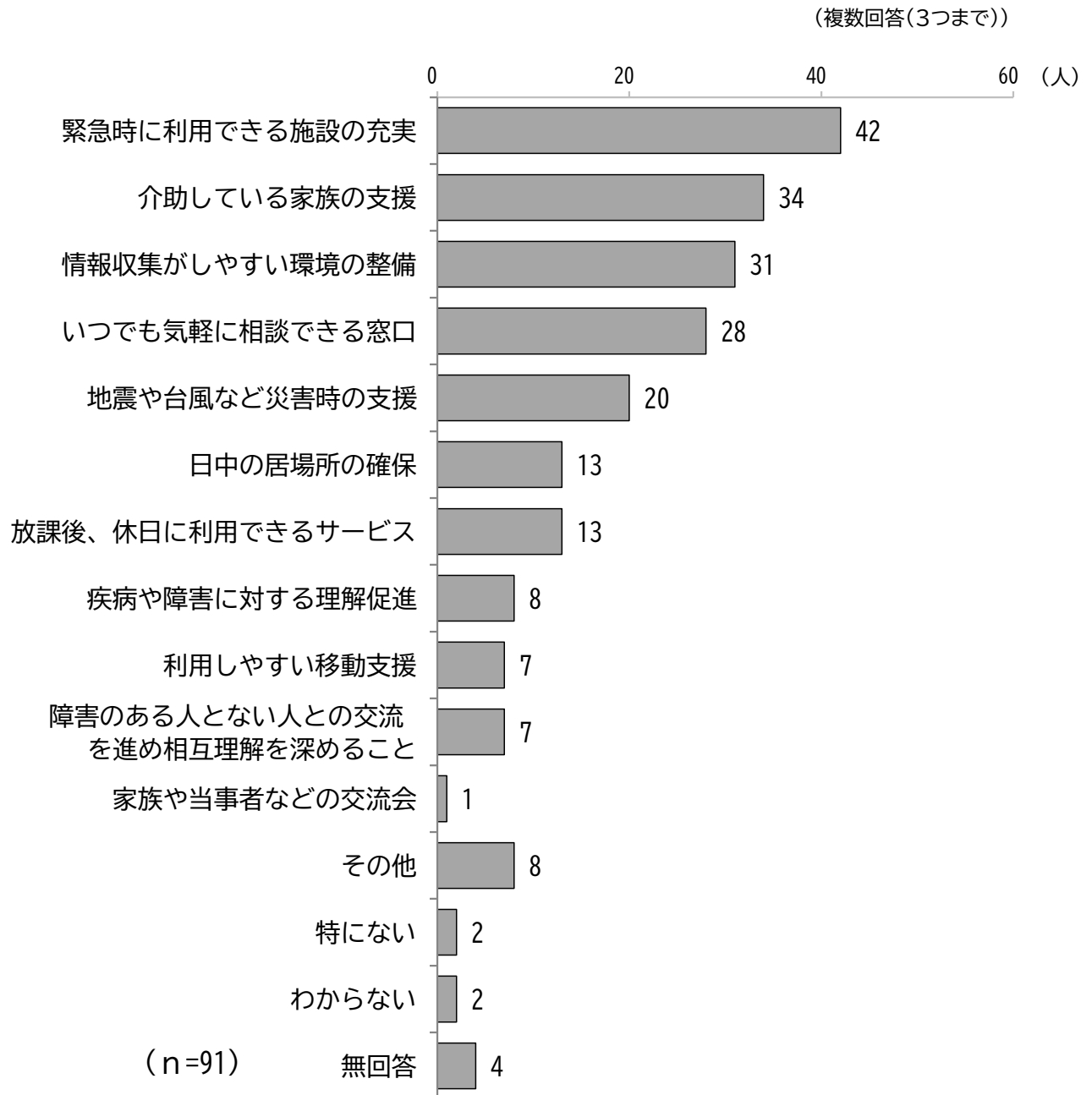
- ・ 災害時の不安について、記述してもらったところ、63 件の貴重な意見をいただいた。1人で2つ以上回答している場合は、それぞれカウントしているため、件数は延べ件数となっている。
- なお、主なものを要約して掲載している。

分類	内容(抜粋・要約)
避難時の 支援について (22 件)	・ 医療機器装着のため、避難時は移動支援が必要となる。(6件) ・ 備品が多く、持ち出せるか不安。(2 件) ・ 移動に際し、介助者が 2 名以上必要となる。(2 件) ・ 移動避難ができない。
避難所 について (9 件)	・ 医療的ケアの避難場所の確保がされているか。 ・ 事前避難について。 ・ 福祉避難所の役割や場所が分からない。 ・ 水害のリスクが高いが、避難場所の海拔が低い。 ・ 避難場所での感染症リスク。(2 件)
医療や 機器について (15 件)	・ 体調悪化時に、医療にたどり着けるか不安。(2 件) ・ 電力の確保が心配。(6 件) ・ 常備薬等の確保について。(4 件) ・ 頻繁に導尿が必要なため、衛生環境や物品を確保できるか不安。(2 件)
在宅避難 について (4 件)	・ 移動に伴う荷物が多いため、家に留まらざるを得ない。 ・ 在宅避難者への情報提供等があるか不安。 ・ 在宅避難者の安否確認を行ってほしい。
その他 (13 件)	・ 親がいない場合に、何もできない。(2 件) ・ 食べられるものが限定されているため、食の確保が不安。 ・ 寒さ対策。

【今後の区の福祉施策について】

<充実すべき障害者(児)福祉施策>

- ・ 充実してほしい障害者(児)福祉は、「緊急時に利用できる施設の充実」が42人と最も多く、次いで「介助している家族の支援」が34人、「情報収集がしやすい環境の整備」が31人となっている。
- ・ 年齢別でみると、19歳以上は「介助している家族への支援」が最も多くなっている。



第8期江戸川区障害福祉計画・第4期江戸川区障害児福祉計画
策定のための基礎調査
(江戸川区生活ニーズに関するアンケート調査)
結果報告書 概要版

令和8年3月

【編集・発行】江戸川区役所 福祉部 障害者福祉課
〒132-8501 江戸川区中央1丁目4番1号
電 話 03(5662)0044(直通) FAX 03(3656)5874
